

三田市の教育に関するアンケート調査

調査結果報告書

令和3年2月

三田市教育委員会

目 次

I 調査の概要

1 調査目的	1
2 調査方法	1
3 回収状況	1
4 調査結果の表示方法	2
5 調査項目一覧	2

II 市民アンケート調査

1 回答者の基本属性	6
2 子どもの教育についての関心と学校、就学前教育に対する市民意識	9
3 家庭、地域での子育てについて	21

III 教職員アンケート調査

1 回答者の基本属性	24
2 教職員の勤務環境の状況	26
3 教育や学習に関する取組	28

IV 共通集計

.....	35
-------	----

V 小学5年生・中学2年生調査

.....	38
-------	----

VI 前回調査との比較（市民アンケート調査）

.....	43
-------	----

VII 調査結果の概要

1 子どもの教育や学習に関する取組	48
2 学びの環境づくり・学校づくりについて	49
3 まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について	50
4 子どもたちの思いについて（小学5年生・中学2年生調査）	50

VIII 自由意見まとめ

- 1 市民アンケート調査…………… 51
- 2 教職員アンケート調査…………… 53

IX 参考資料

- 1 市民アンケート調査票…………… 54
- 2 教職員アンケート調査票…………… 58
- 3 小学5年生・中学2年生調査票…………… 61

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、三田市の教育の振興に関して基本的な事項を定める「第3期三田市教育振興基本計画（計画期間：令和4年度～令和8年度の5年間）」を策定するにあたり、今後、重点をおくべき施策の把握を目的に、市民・教職員及び小中学生を対象にアンケート調査を実施するものです。

2 調査方法

- ① 調査地域 三田市内
- ② 調査対象者
 - ・市内に在住する18歳以下の子どもがいる保護者世帯
 - ・市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の教職員
 - ・市内小中学校の小学5年生児童、中学2年生生徒
- ③ 標本数
 - ・市民2,000人
 - ・教職員818人
 - ・小学5年生1,017人
 - ・中学2年生917人
- ④ 抽出方法
 - ・市民：住民基本台帳から無作為抽出
- ⑤ 調査方法
 - ・市民：郵送配布、郵送回収による郵送調査法及びWebによる回答
 - ・教職員：各学校園を通じて直接配布、直接回収
 - ・小中学生：各学校を通じて直接配布、直接回収
- ⑥ 調査期間 令和2年10月9日（金）～10月23日（金）

3 回収状況

	配布数	回収数	回収率(%)
市民アンケート調査	2,000	1,164	58.20%
教職員アンケート調査	818	813	99.39%
小学5年生調査	1,017	992	97.54%
中学2年生調査	917	860	93.78%

4 調査結果の表示方法

- ・グラフに表示されているN値とは、回答者数のことを示しています。
- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入してありますので、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・単純集計に加え、回答者属性によるクロス集計を行いました。クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、集計表を作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。なお、クロス集計において項目ごとに、最も高い選択肢を網掛け■で、次に高い選択肢を□で表示しています。
- ・クロス集計の場合、回答者属性の無回答を排除しているため、クロス集計の回答数の合計と単純集計（全体）の回答数が合致しないことがあります。

5 調査項目一覧

下記の調査項目について、アンケート内容より整理しました。

(1) 市民アンケート調査

調査項目	設問内容		頁	第2期計画に該当する体系
1 回答者の基本属性	問1	年齢	6	
	問2	アンケート回答者	6	
	問3	居住小学校区	7	
	問4	居住年数	7	
	問5	子どもの年代	8	
	問6	子どもの兄弟姉妹	8	
2 子どもの教育や学習に関する取組	問7	子どもの教育について関心のあること	9	1-1-(1) 1-3-(1)
	問8	三田市の子どもたちに望む姿	10	1-4-(1)
	問9	子どもたちを取り巻く環境の変化	11	3-9-(1)
	問10	三田市の子どもたちに身につけている能力や態度	12	1-3-(1) 1-4-(1)
	問11	学校に対しての要望	14	2-8-(3)
	問12	就学前教育に対しての要望	15	1-2-(1)
	問13	いじめや不登校などの問題を防止するために必要なこと	16	1-6-(2)
	問14	特別支援教育の充実のために必要な取り組み	17	1-6-(1)
	問15	学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと	18	3-9-(1)
	問16	小学校・中学校の再編を進める上での必要な配慮	19	2-8-(1)
問17	新型コロナウイルス感染症による教育についての不安	20	2-8-(2)	
3 家庭、地域での子育てについて	問18	地域行事への参加	21	3-9-(2)
	問19	地域で子どもたちの教育に関わってくれる人	22	3-9-(1)
	問20	子育てで大切にしていること	23	3-9-(2)

(2) 教職員アンケート調査

調査項目	設問内容		頁	第2期計画に該当する体系
1 回答者の基本属性	問1	勤務先	24	
	問2	職種	24	
	問3	経験年数	25	
	問4	勤務している学校区	25	
2 教職員の勤務環境の状況	問5	多忙な業務	26	2-8-(3)
	問6	三田市の教育の中で充実する必要がある取組	28	2-8-(1) 2-8-(3)
	問7	学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと	32	3-9-(1)
	問8	小学校・中学校の再編を進める上での必要な配慮	33	2-8-(1)
	問9	新型コロナウイルス感染症による教育についての不安	34	2-8-(2)

(3) 小学5年生・中学2年生調査

調査項目	設問内容		頁	第2期計画に該当する体系
1 回答者の基本属性	問1	自分の長所	38	1-1-(1)
	問2	信頼できる友だちの有無	39	1-4-(2)
	問3	家族とよく話すか	40	3-9-(2)
	問4	地域行事やイベントの参加意向	41	3-9-(1)
	問5	魅力を感じる学校	42	1-3-(1)

[基本理念] **子どもの夢と未来が輝くまち さんだ**

[めざす子ども像] **自分が好き、人が好き、このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子**



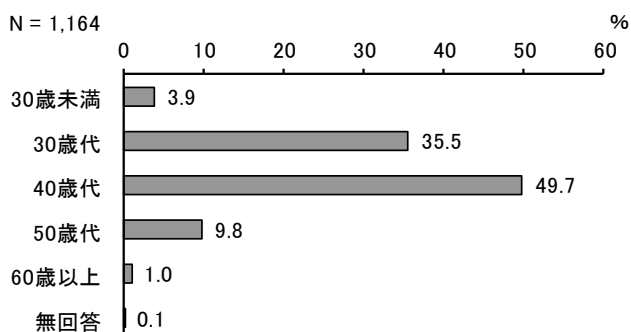
II 市民アンケート調査

1 回答者の基本属性

問1 あなたの年齢は何歳ですか。(令和2年10月1日現在)(1つに○)

①年齢

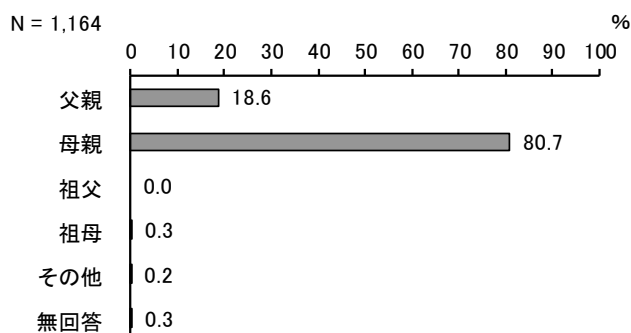
年齢については、「40歳代」の割合が49.7%と最も高く、次いで「30歳代」の割合が35.5%となっています。



問2 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。
宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(1つに○)

②アンケート回答者

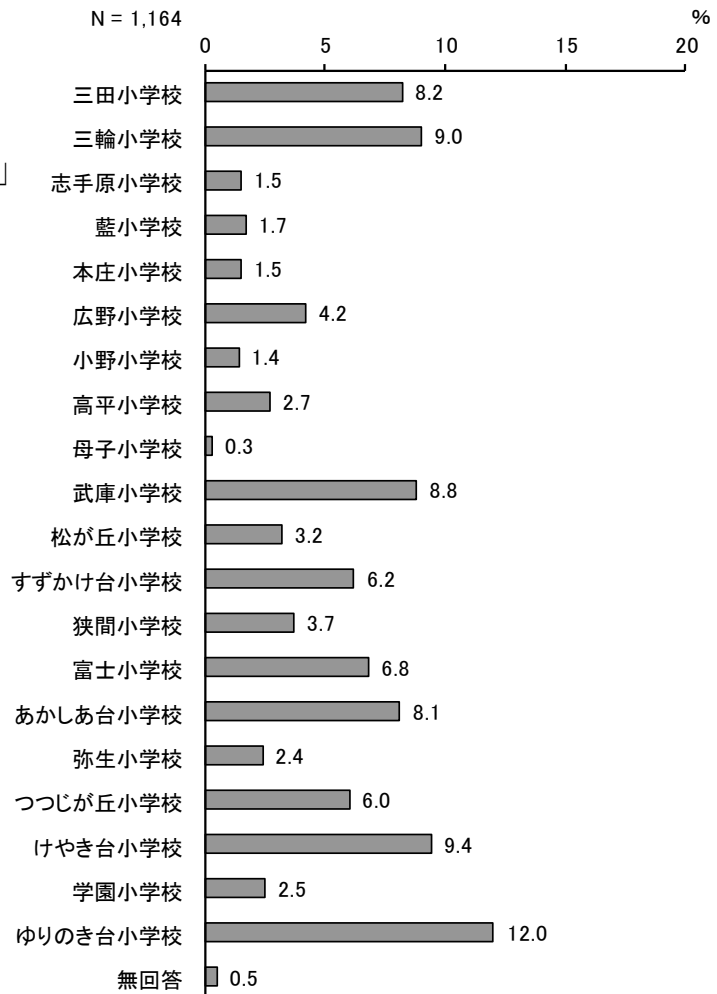
アンケート回答者については、「母親」の割合が80.7%と最も高く、次いで「父親」の割合が18.6%となっています。



問3 お住まいの小学校区はどちらですか。(1つに○)

③居住小学校区

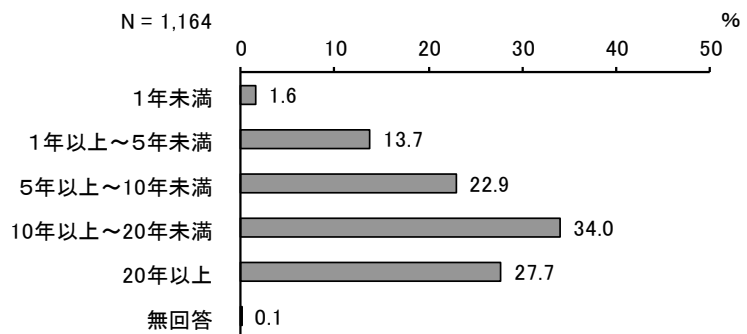
居住小学校区については、「ゆりのき台小学校」の割合が12.0%と最も高く、次いで「けやき台小学校」の割合が9.4%となっています。



問4 あなたは、三田市に住んで何年になりますか。(令和2年10月1日現在)
(1つに○)

④居住年数

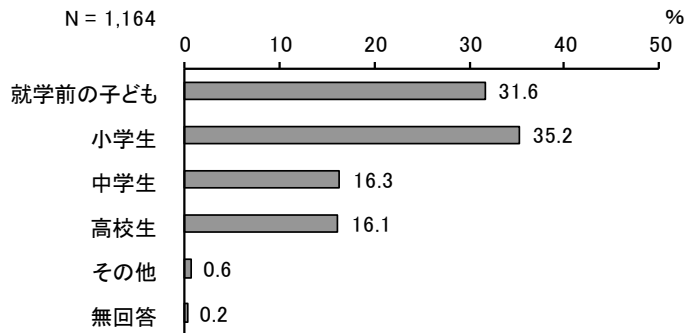
居住年数については、「10年以上～20年未満」の割合が34.0%と最も高く、次いで「20年以上」の割合が27.7%、「5年以上～10年未満」の割合が22.9%となっています。また、20年未満が72.2%となっており、回答者の約7割が市外からの転入者となっています。



問5 宛名のお子さんは次のどちらに該当しますか。(1つに○)

⑤子どもの年代

子どもの年代については、「小学生」の割合が35.2%と最も高く、次いで「就学前の子ども」の割合が31.6%、「中学生」の割合が16.3%となっており、ほぼ当該区分相当の人口と同程度の割合となっています。

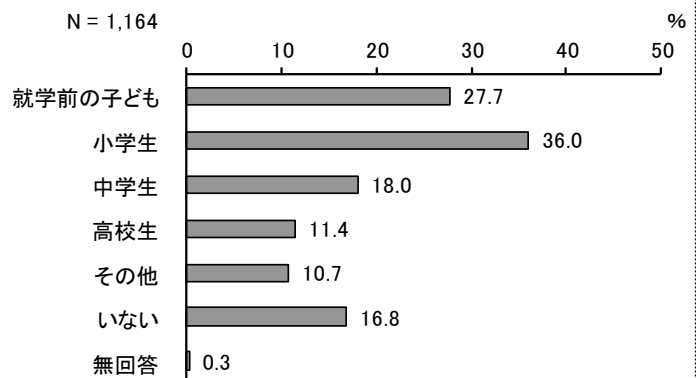


問6 宛名のお子さん以外に兄弟姉妹はいらっしゃいますか。
いる場合は次のどちらに該当しますか。(該当するものに○)

⑥子どもの兄弟姉妹

子どもの兄弟姉妹については、「小学生」の割合が36.0%と最も高く、次いで「就学前の子ども」の割合が27.7%、「中学生」の割合が18.0%となっています。

2015年国立社会保障人口問題研究所調べでは、「ひとりっ子」世帯の割合は19.8%となっており、アンケート結果(16.8%)から、三田市は、全国平均に比べて「兄弟姉妹のいる世帯の割合が多い」ことが伺えます。



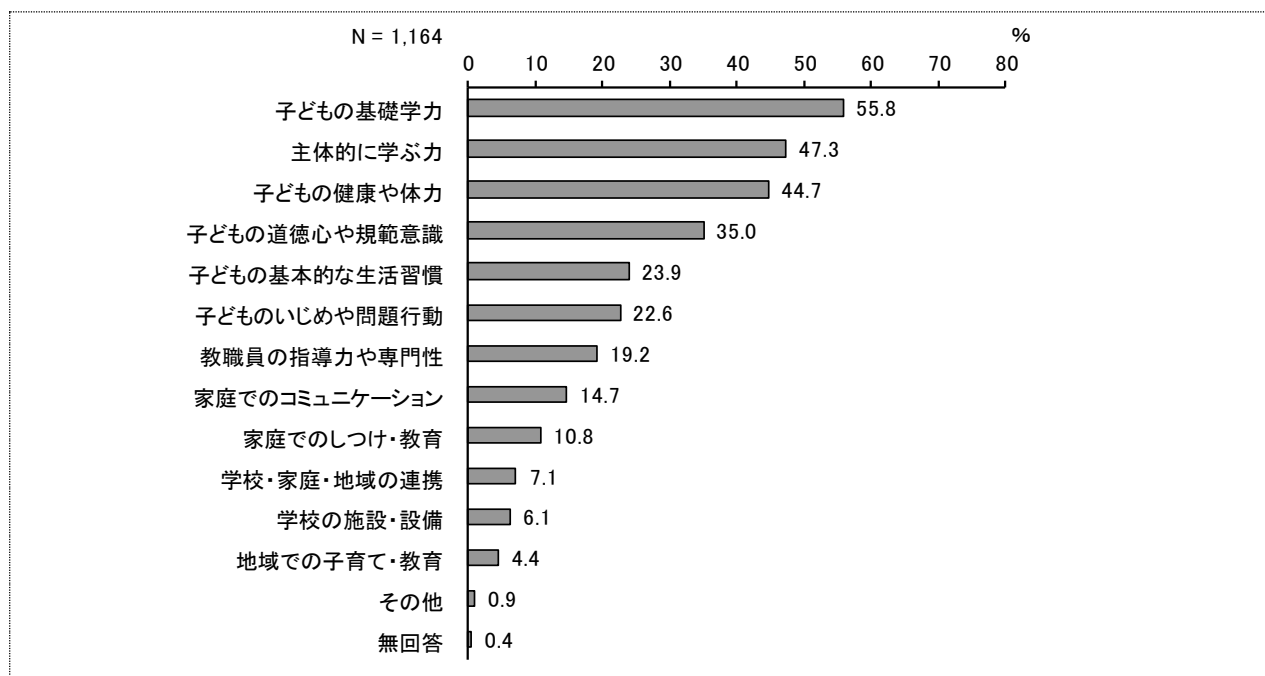
2 子どもの教育についての関心と学校、就学前教育に対する市民意識

(1) 子どもの教育について関心のあること

問7 子どもの教育について、関心のあることは何ですか。
(主なものを3つまで○)

子どもの教育について関心のあることについて子どもの年代別で見ると、就学前の子どもでは「子どもの健康や体力」の割合が最も高いのに対し、小学生以上では「子どもの基礎学力」が最も高い割合となっており、就学と同時に学力面の関心が高くなることが伺えます。また、どの年代でも「主体的に学ぶ力」は4割半ばから後半となっており、子どもの自主性を重んじる保護者が多いことが伺えます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、子どもの教育について関心のあること

単位：%

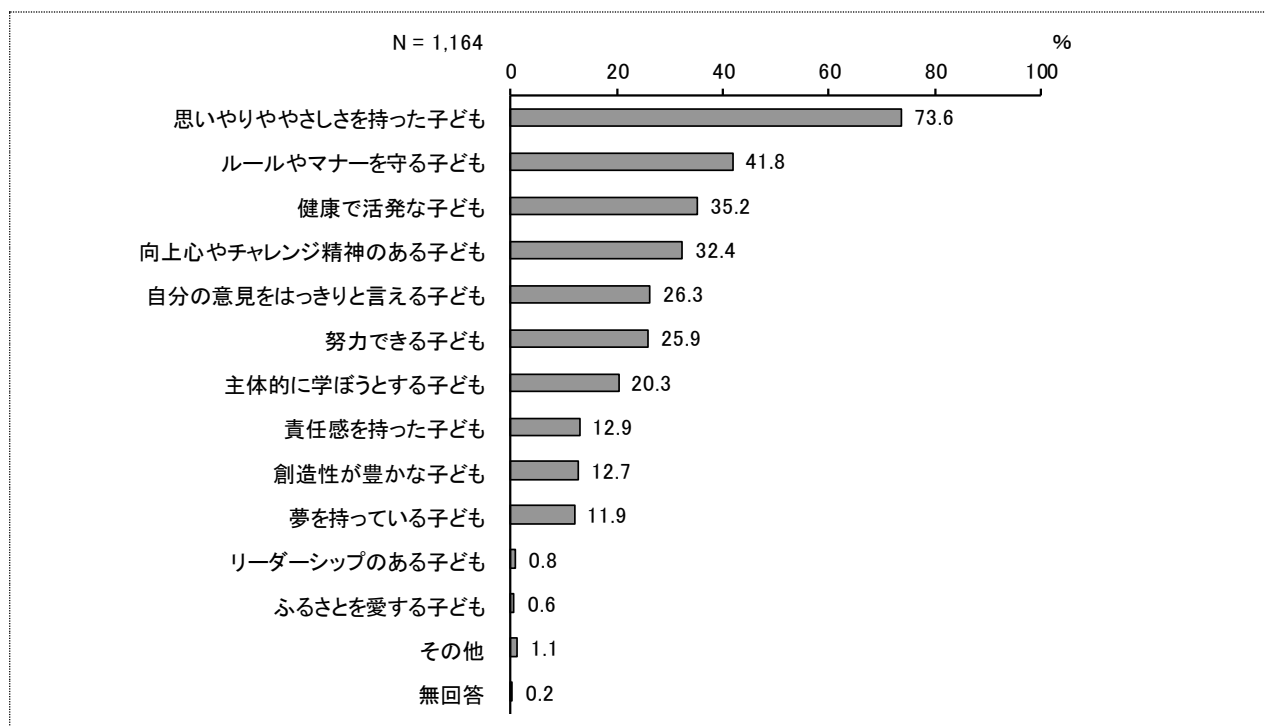
区分	回答者数 (件)	子どもの基礎学力	主体的に学ぶ力	子どもの健康や体力	生活習慣	子どもの基本的な生活習慣	規範意識	子どもの道徳心や規範意識	問題行動	子どものいじめや問題行動	学校の施設・設備	教職員の指導力や専門性	家庭でのしつけ・教育	家庭でのコミュニケーション	家庭での子育て・教育	学校・家庭・地域の連携	その他	無回答
就学前の子ども	368	46.7	46.2	52.7	21.7	33.4	23.9	6.8	12.5	15.8	16.0	8.2	9.2	0.5	0.5			
小学生	410	62.0	48.5	42.9	25.9	36.6	23.7	5.1	20.5	8.5	11.2	1.7	5.6	0.5	0.2			
中学生	190	60.0	49.5	42.1	25.3	33.7	23.7	5.8	22.1	7.4	17.4	2.1	5.8	0.5	—			
高校生	187	56.1	45.5	34.8	21.9	35.3	17.1	7.0	27.3	10.2	17.6	4.8	7.5	2.7	0.5			
その他	7	57.1	42.9	71.4	42.9	57.1	14.3	14.3	—	—	—	—	—	—	—			

(2) 三田市の子どもたちに望む姿

問8 あなたは、子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

三田市の子どもたちに望む姿について、子どもの年代別でみると、どの年代でも「思いやりやさしさを持った子ども」が高くなっています。また、就学前の子どもでは「健康で活発な子ども」の割合が高く、問7で「子どもの健康や体力」への関心が高いことも合わせて考えると、健康で外遊びなど活発な運動をする姿が求められていると考えられます。一方、小学生以上では「ルールやマナーを守る子ども」の割合が高く、社会生活での規律が求められていると考えられます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、三田市の子どもたちに望む姿

単位：%

区分	回答者数(件)	ルールやマナーを守る子ども	健康で活発な子ども	自分の意見をはっきりと言える子ども	創造性が豊かな子ども	思いやりやさしさを持った子ども	努力できる子ども	責任感を持った子ども	主体的に学ぼうとする子ども	向上心やチャレンジ精神のある子ども	夢を持っている子ども	リーダーシップのある子ども	ふるさとを愛する子ども	その他	無回答
就学前の子ども	368	38.6	42.9	26.4	13.0	78.8	23.6	6.0	19.8	35.6	12.0	0.3	0.5	1.6	—
小学生	410	42.2	34.4	26.6	12.9	72.0	27.6	14.6	20.2	30.7	10.7	1.5	1.0	0.5	0.2
中学生	190	45.3	25.8	31.1	13.7	70.0	24.7	15.3	22.1	30.5	14.2	0.5	0.5	0.5	—
高校生	187	42.8	32.6	19.8	10.7	71.7	27.3	20.3	19.8	32.6	12.3	0.5	—	2.1	—
その他	7	71.4	14.3	57.1	—	71.4	42.9	14.3	14.3	14.3	—	—	—	—	—

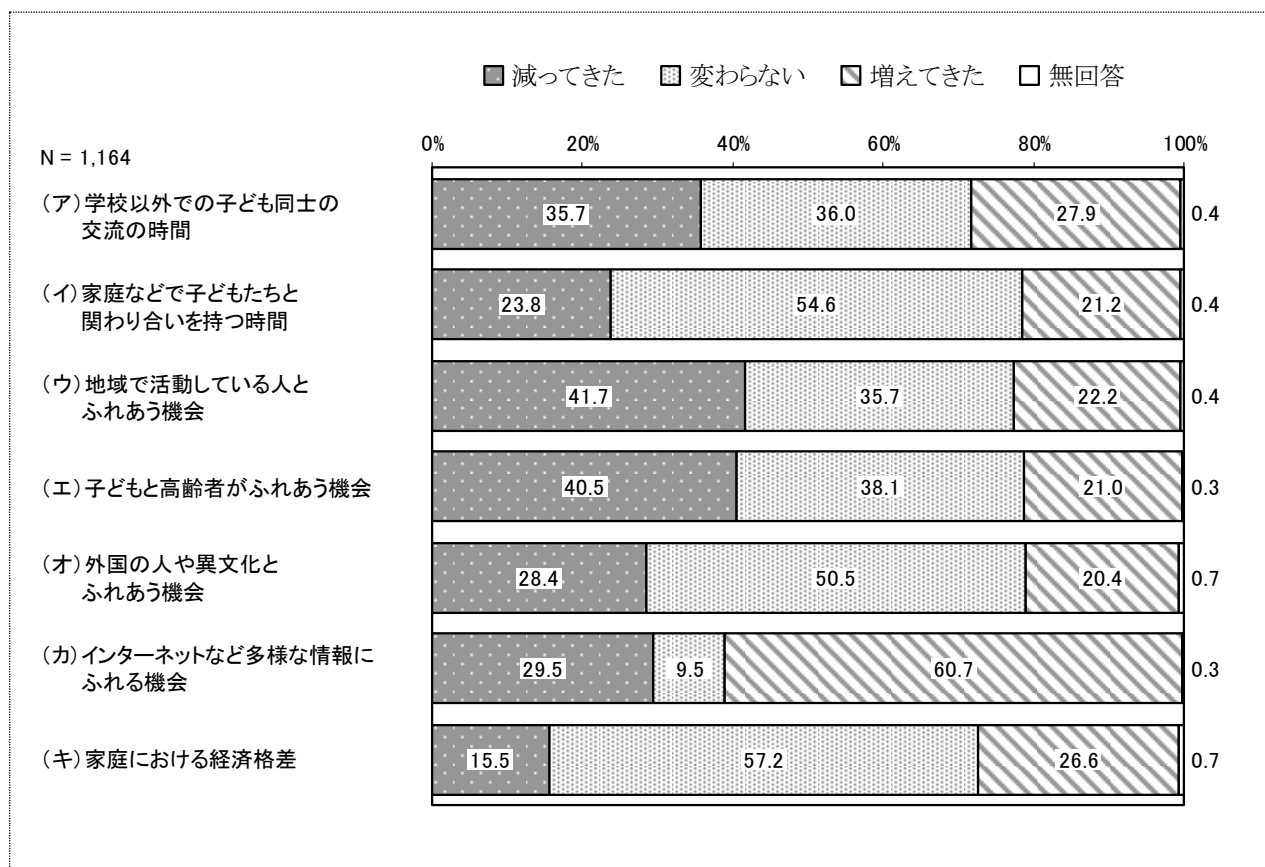
(3) 子どもたちを取り巻く環境の変化

問9 子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきたと思いますか。(〇は(ア)～(キ)ごとに1つ)

子どもたちを取り巻く環境の変化については、『(カ) インターネットなど多様な情報にふれる機会』『(キ) 家庭における経済格差』で「増えてきた」の割合が「減ってきた」の割合より高くなっています。特に『(カ) インターネットなど多様な情報にふれる機会』では、「減ってきた」と「増えてきた」の割合に約31ポイントの差がみられ、子どもがインターネットに触れる機会が急増していることが伺えます。

一方、『(ア) 学校以外での子ども同士の交流の時間』『(ウ) 地域で活動している人とふれあう機会』『(エ) 子どもと高齢者がふれあう機会』『(オ) 外国の人や異文化とふれあう機会』では、「減ってきた」の割合が「増えてきた」の割合より高く、特に『(ウ) 地域で活動している人とふれあう機会』『(エ) 子どもと高齢者がふれあう機会』では、「減ってきた」と「増えてきた」の割合に約20ポイントの差がみられ、子どもを取り巻く人々のふれあいが減少していることが伺えます。

○全体集計



(4) 三田市の子どもたちに身につけている能力や態度

問10 教育を通じて、子どもたちには「現在」①～⑯の能力や態度が身につけていると思いますか。また、「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

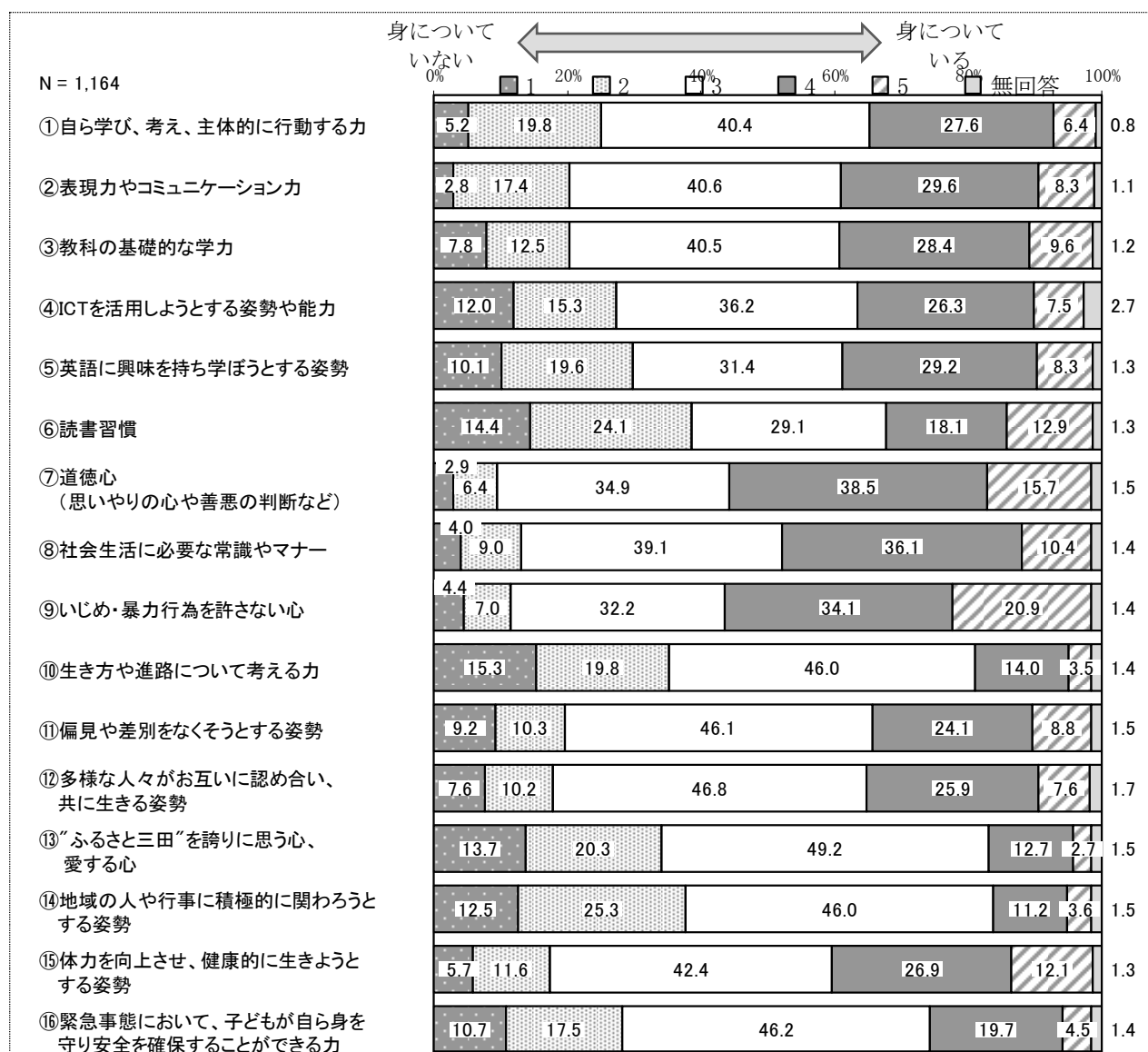
①現在の状況

三田市の子どもたちに身につけている能力や態度を5段階で評価し、“身につけていない”(「1」と「2」の合計)と“身につけている”(「4」と「5」の合計)の割合をみると、『⑥読書習慣』『⑩生き方や進路について考える力』『⑬“ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心』『⑭地域の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢』で“身につけていない”の割合が高く、一方で“身につけている”と回答する割合が低いことから、これらが課題として挙げられます。

一方、『⑦道徳心(思いやりの心や善悪の判断など)』『⑧社会生活に必要な常識やマナー』『⑨いじめ・暴力行為を許さない心』では“身につけている”の割合が約5割となっており、一方で、“身につけていない”と回答する割合が低いことから、子どもたちに他者を

慮る心おもんばかが一定身につけていると考えられます。

○全体集計



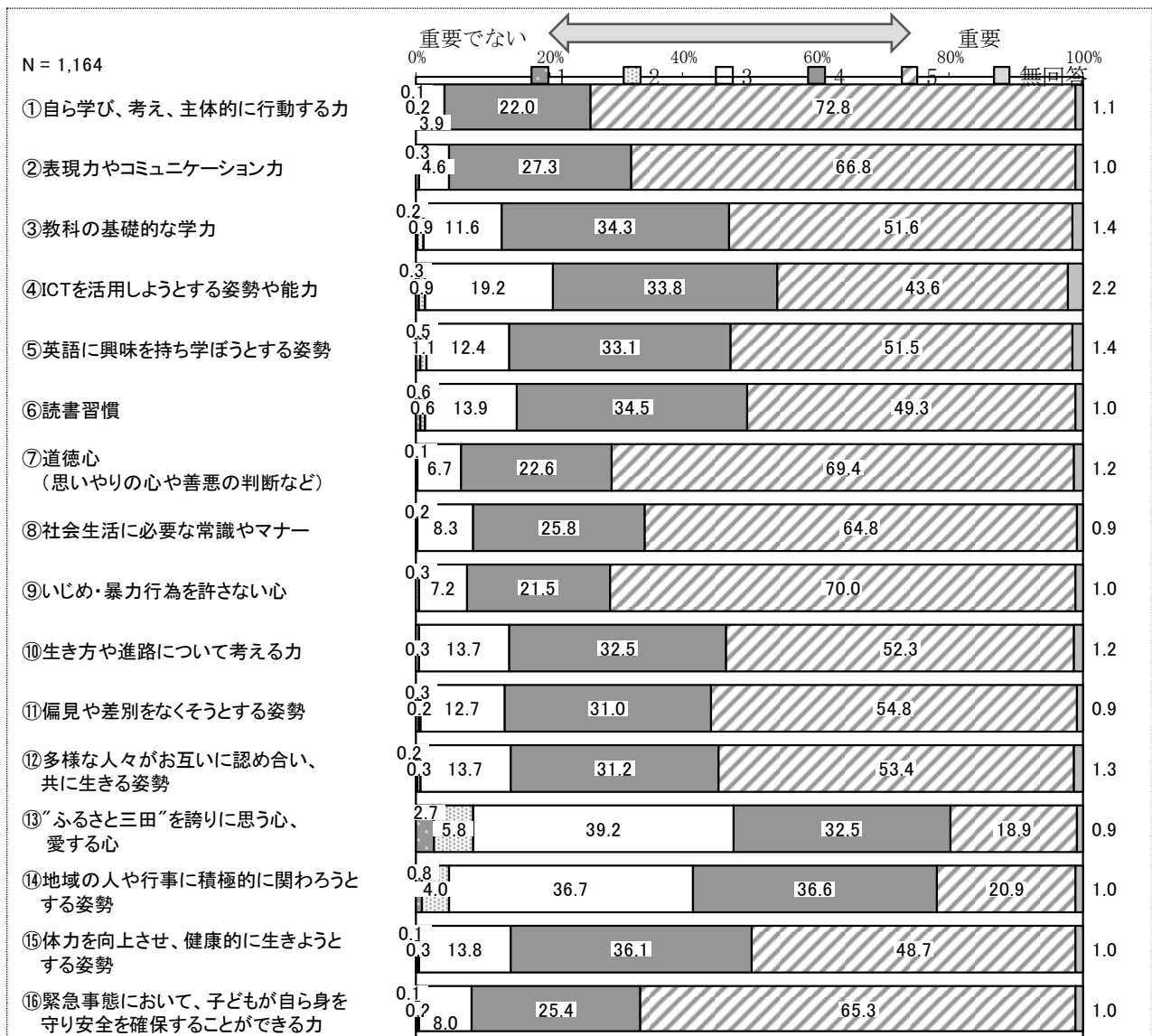
②今後の重要度

三田市の子どもたちにとっての今後の重要度を5段階で評価し、“重要でない”（「1」と「2」の合計）と“重要”（「4」と「5」の合計）の割合をみると、すべての項目で“重要でない”の割合が1割未満と低く、すべての項目で“重要”の割合が高くなっています。

中でも、『①自ら学び、考え、主体的に行動する力』『②表現力やコミュニケーション力』は“重要”が9割半ばを占めている一方、現在の状況として“身につけている”は3割台となっており、これらの力の引き上げが強く望まれています。

また、『⑬“ふるさと三田”を誇りに思う心』『⑭地域の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢』が重要と考える人の割合が他の項目に比べて低く、今後の重要度の低さが現在の状況にも表れているのではないかと考えられます。

○全体集計

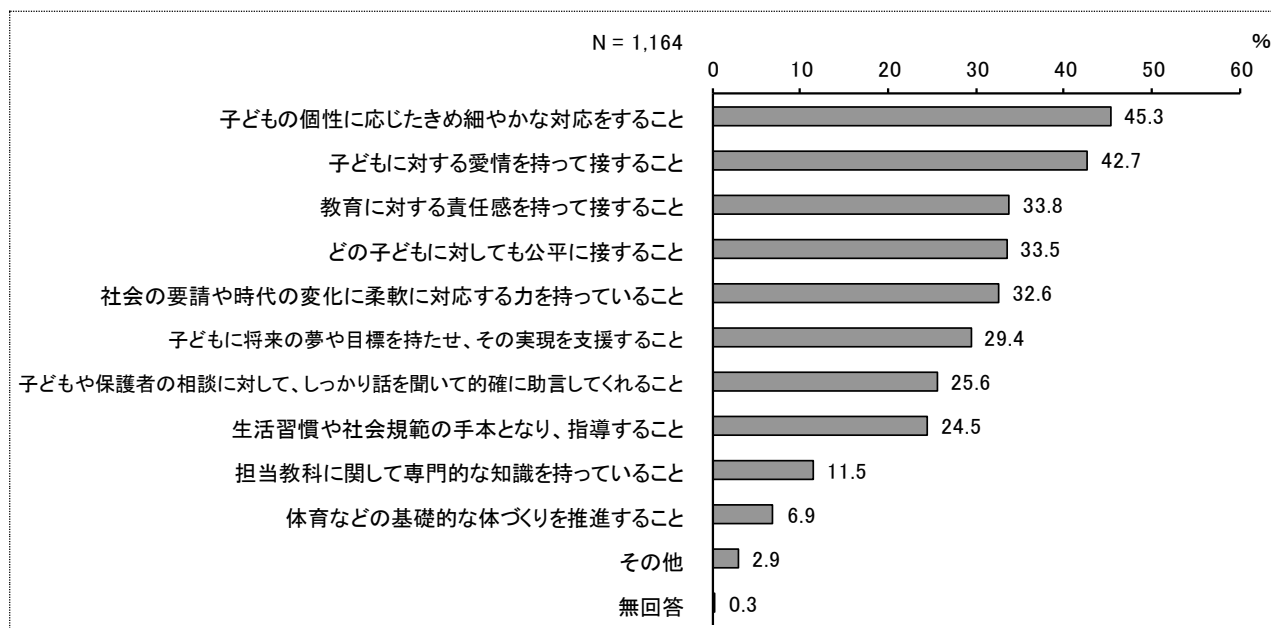


(5) 学校に対しての要望

問11 あなたは、学校に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

小・中学校に対しての要望について子どもの年代別で見ると、いずれの年代でも、「子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること」が高く、子どもの年代が低くなるにつれ「子どもに対する愛情を持って接すること」の割合が高くなる傾向がみられます。また、中学生、高校生では「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が高く、子どもが進路を選択する際への関わりが求められています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、小・中学校に対しての要望

単位：%

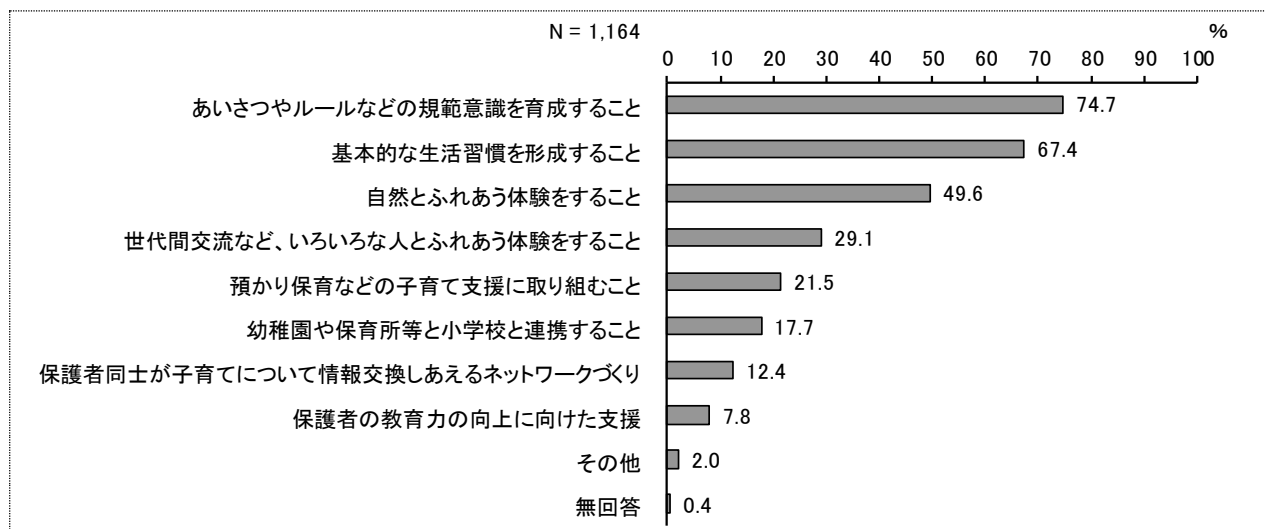
区分	回答者数(件)	教育に対する責任感を持って接すること	子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること	生活習慣や社会規範の手本となり、指導すること	子どもに対する愛情を持って接すること	子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること	子どもや保護者の相談に対して、しっかり話を聞いて的確に助言してくれること	担当教科に関して専門的な知識を持っていること	どの子どもに対しても公平に接すること	社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持っていること	体育などの基礎的な体づくりを推進すること	その他	無回答
就学前の子ども	368	31.5	47.6	27.2	50.5	23.6	28.8	7.3	32.3	32.1	8.7	2.7	—
小学生	410	34.4	43.4	26.1	43.4	27.3	23.9	13.9	33.4	32.4	7.8	2.0	0.5
中学生	190	34.2	49.5	17.4	35.3	38.9	27.9	13.7	33.2	31.6	3.7	3.7	0.5
高校生	187	37.4	41.2	22.5	33.7	36.4	20.3	12.3	35.3	34.8	4.3	4.8	0.5
その他	7	28.6	28.6	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	57.1	42.9	14.3	—	—

(6) 就学前教育に対する要望

問12 あなたは、就学前教育に対してどのようなことを望みますか。
(主なものを3つまで○)

就学前教育に対する要望について子どもの年代別で見ると、すべての年代で「基本的な生活習慣を形成すること」「あいさつやルールなどの規範意識を育成すること」の割合が高く、生活習慣や社会でのルールを早期に身につけることが求められています。また、就学前の子どもで「自然とふれあう体験をすること」の割合が高く、自然の中での多様な体験をすることが求められています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、就学前教育に対する要望

単位：%

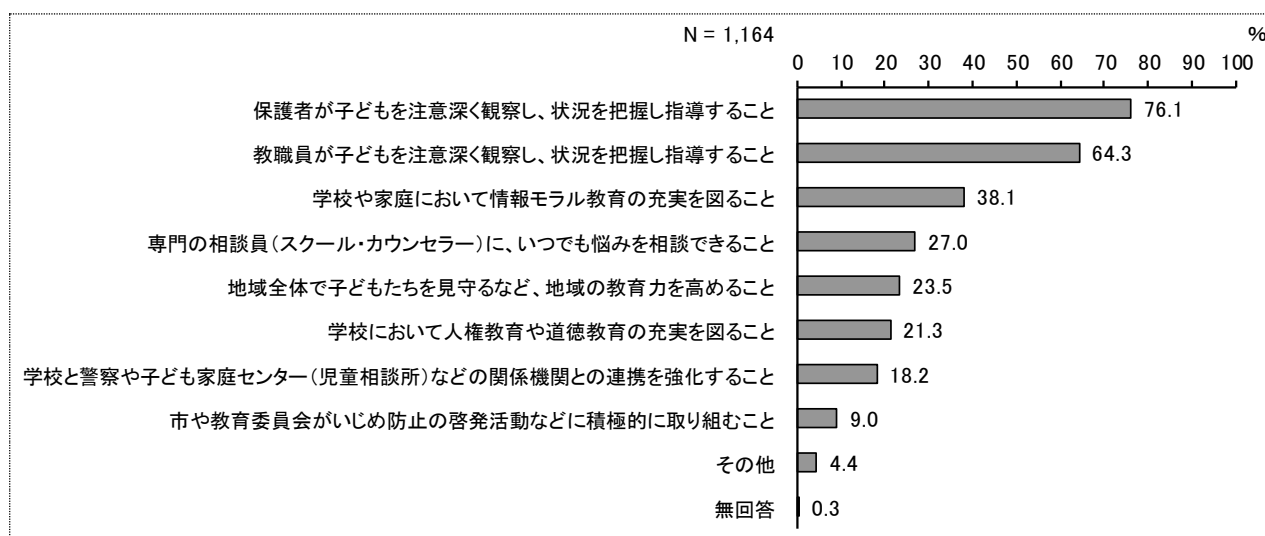
区分	回答者数(件)	基本的な生活習慣を形成すること	あいさつやルールなどの規範意識を育成すること	自然とふれあう体験をすること	世代間交流など、いろいろな人とふれあう体験をすること	預かり保育などの子育て支援に取り組むこと	幼稚園や保育所等と小学校と連携すること	保護者の教育力の向上に向けた支援	保護者同士が子育てについて情報交換しあえるネットワークづくり	その他	無回答
就学前の子ども	368	66.0	78.3	54.9	31.8	18.8	18.5	8.2	12.2	3.0	—
小学生	410	70.0	74.9	47.3	26.3	23.9	20.7	7.6	9.0	1.0	0.5
中学生	190	71.1	72.1	44.7	28.9	21.6	14.7	7.4	14.2	1.6	1.1
高校生	187	61.5	69.5	48.7	30.5	21.4	12.3	8.6	18.2	2.1	0.5
その他	7	71.4	85.7	57.1	28.6	—	14.3	—	14.3	14.3	—

(7) いじめや問題行動などを防止するために必要なこと

問 13 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

いじめや不登校などの問題を防止するために必要なことについて子どもの年代別で見ると、すべての年代で「保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること」「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること」の割合が上位2位となっており、子どもたちに日々関わっている大人が「いじめは絶対に許さない」といった意識を持って、注意喚起・指導することが重要であることが伺えます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、いじめや問題行動などを防止するために必要なこと

単位：%

区分	回答者数(件)	保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること	教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること	地域全体で子どもたちを見守るなど、地域の教育力を高めること	学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること	学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること	専門の相談員(スクール・カウンセラー)に、いつでも悩みを相談できること	市や教育委員会がいじめ防止の啓発活動などに積極的に取り組むこと	学校と警察や子ども家庭センター(児童相談所)などの関係機関との連携を強化すること	その他	無回答
就学前の子ども	368	75.3	60.3	28.5	36.4	26.1	29.3	8.2	20.7	4.9	—
小学生	410	76.6	70.0	21.2	37.8	23.4	22.2	9.3	16.6	2.9	0.5
中学生	190	80.5	65.3	19.5	39.5	13.7	29.5	8.4	16.8	5.8	—
高校生	187	72.7	59.9	20.9	41.2	15.5	29.9	10.7	18.2	5.3	0.5
その他	7	71.4	42.9	42.9	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	—	—

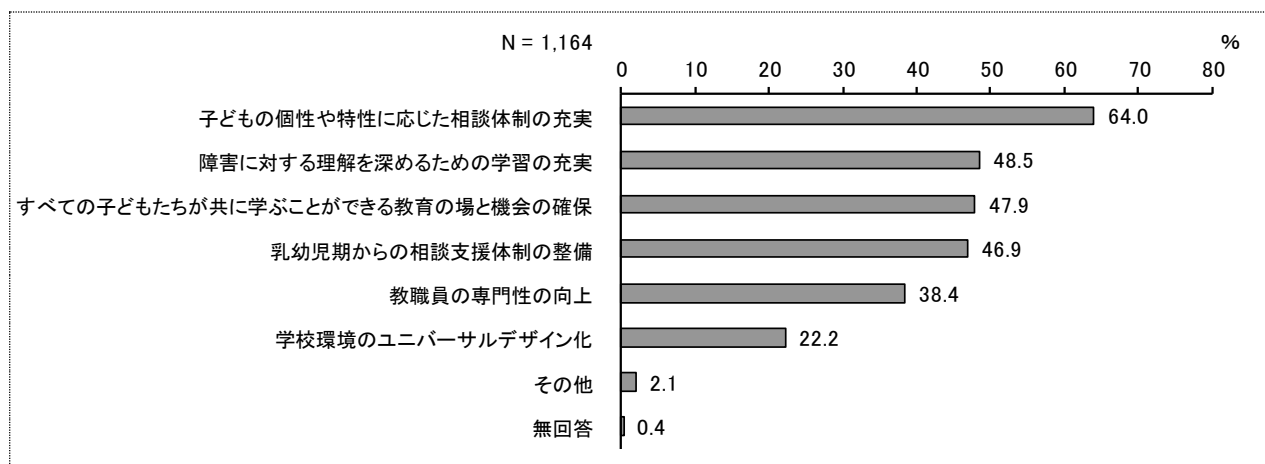
(8) 特別支援教育の充実のために必要な取り組み

問 14 あなたは、特別支援教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。
(主なものを3つまで○)

特別支援教育の充実のために必要な取り組みについて子どもの年代別で見ると、すべての年代で「子どもの個性や特性に応じた相談体制の充実」の割合が高くなっているほか、就学前の子どもでは「乳幼児期からの相談支援体制の整備」の割合が高く、なるべく早い時期からの支援体制を取ることが求められています。

また、すべての年代で「障害に対する理解を深めるための学習の充実」の割合が高く、インクルーシブ教育の重要性が伺えます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、特別支援教育の充実のために必要な取り組み

単位：%

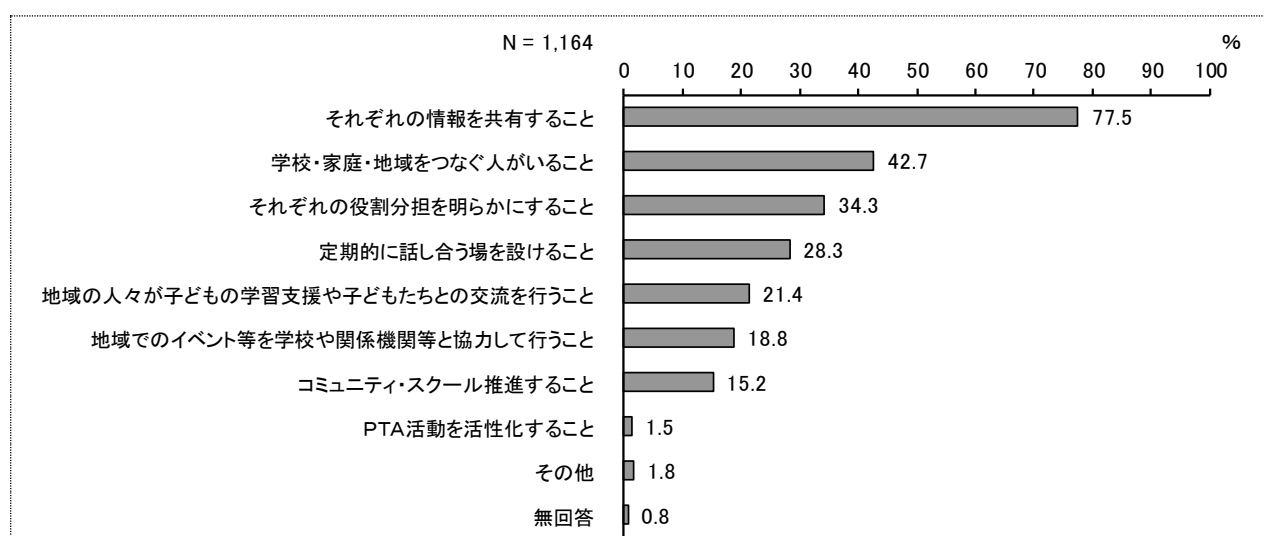
区分	回答者数(件)	すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保	乳幼児期からの相談支援体制の整備	子どもの個性や特性に応じた相談体制の充実	教職員の専門性の向上	学校環境のユニバーサルデザイン化	障害に対する理解を深めるための学習の充実	その他	無回答
就学前の子ども	368	44.8	55.7	69.6	34.8	22.6	49.5	1.1	0.3
小学生	410	50.7	44.9	60.2	42.0	21.2	46.6	2.7	0.5
中学生	190	46.3	39.5	64.2	39.5	21.6	52.1	1.1	1.1
高校生	187	48.7	41.2	60.4	38.0	24.1	48.1	4.3	—
その他	7	71.4	57.1	85.7	14.3	—	28.6	—	—

(9) 学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと

問 15 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思いますか。(主なもの3つまで○)

学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なことについて子どもの年代別で見ると、すべての年代で「それぞれの情報を共有すること」の割合が群を抜いて高くなっており、次いで「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」となっていることから、学校・家庭・地域の現状や課題といった情報を共有する体制の整備とともに、学校・家庭・地域をつなぐコーディネーター的な役割を担う人材の育成が重要であると考えられます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、特別支援教育の充実のために必要な取り組み

単位：%

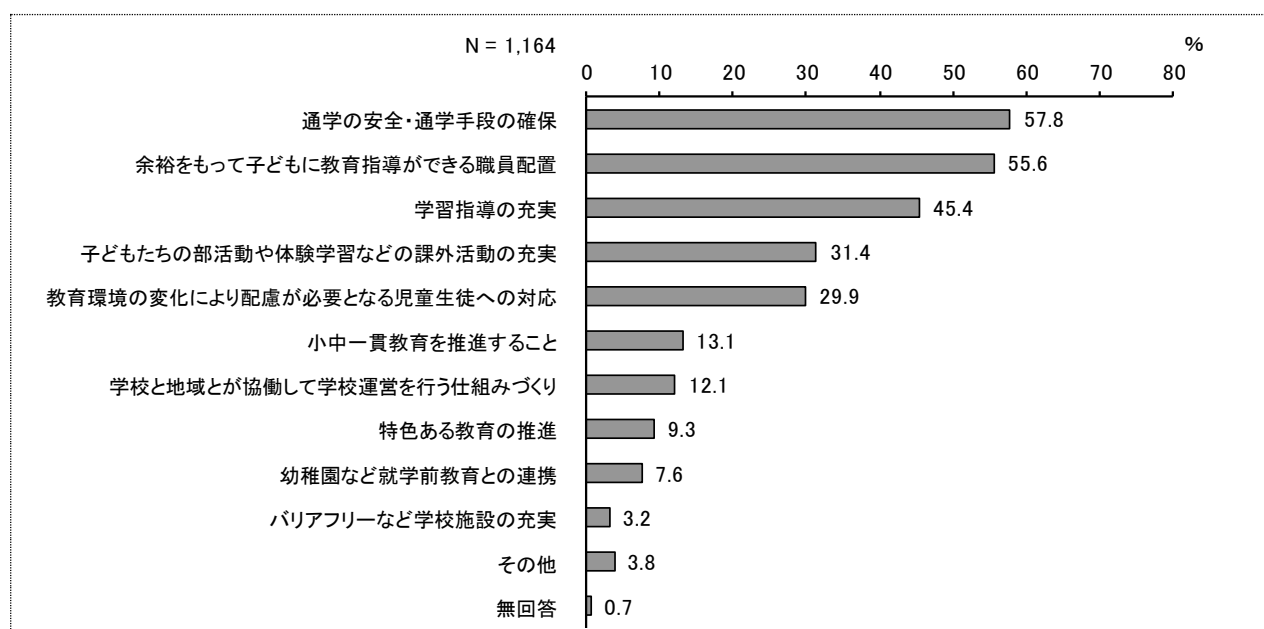
区分	回答者数(件)	それぞれの役割分担を明らかにすること	それぞれの情報を共有すること	定期的に話し合う場を設けること	学校・家庭・地域をつなぐ人がいること	コミュニティ・スクール推進すること	地域の人が子どもの学習支援や子どもたちとの交流を行うこと	PTA活動を活性化すること	地域でのイベント等を学校や関係機関等と協力して行うこと	その他	無回答
就学前の子ども	368	33.7	80.2	29.9	48.6	14.4	21.7	0.8	20.4	1.6	1.1
小学生	410	37.6	76.8	28.0	40.0	15.9	19.3	1.5	15.6	1.5	1.0
中学生	190	35.3	75.3	27.4	39.5	13.7	22.1	1.6	21.6	1.6	—
高校生	187	28.3	74.9	27.3	39.6	16.6	23.5	3.2	20.3	3.2	0.5
その他	7	—	100.0	14.3	57.1	28.6	57.1	—	14.3	—	—

(10) 小学校・中学校の再編を進める上での必要な配慮

問 16 三田市では各学校の児童生徒数の減少による小規模化が課題となっており、子どもの教育環境を保障するため、今後、三田市立小中学校の再編を進めていく上で、市はどのような取組に配慮していくことが望ましいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

小学校・中学校の小規模化の課題を解決するため、今後学校再編を進めていく上での必要な配慮について子どもの年代別でみると、すべての年代で「通学の安全・通学手段の確保」「余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置」の割合が上位2位となっており、通学距離が長くなることに伴う安全への配慮、児童生徒数にあわせた適切な教員配置が学校再編を進めていく上で特に配慮していく必要があると考えられます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、小学校・中学校の小規模化についての考え

単位：%

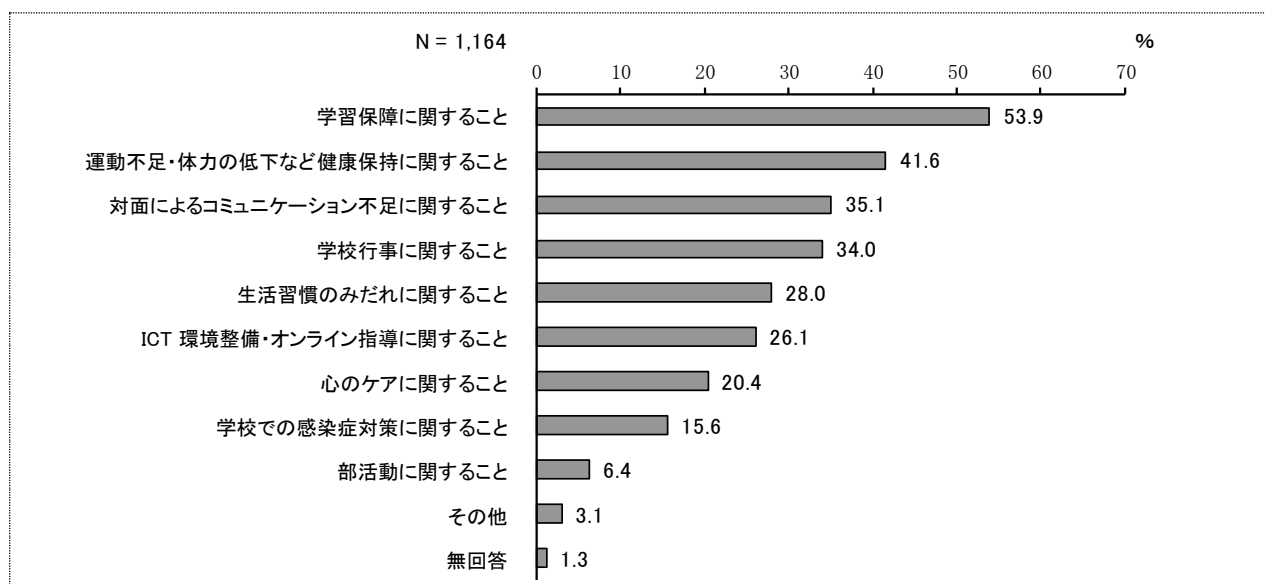
区分	回答者数(件)	学習指導の充実	子どもたちの部活動や体験学習などの課外活動の充実	教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応	通学の安全・通学手段の確保	学校と地域とが協働して学校運営を行う仕組みづくり	余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置	小中一貫教育を推進すること	幼稚園など就学前教育との連携	バリアフリーなど学校施設の充実	特色ある教育の推進	その他	無回答
就学前の子ども	368	42.4	32.1	29.6	59.0	13.0	60.9	8.4	14.1	3.0	9.5	3.8	0.8
小学生	410	48.0	31.5	27.1	56.3	12.0	53.9	15.9	5.6	3.7	10.2	4.1	0.7
中学生	190	45.8	34.2	34.2	53.2	11.6	56.8	15.8	0.5	3.2	8.4	2.6	0.5
高校生	187	45.5	25.7	33.2	62.6	10.7	50.3	13.4	6.4	2.1	7.0	4.3	0.5
その他	7	42.9	71.4	14.3	71.4	14.3	—	14.3	14.3	—	14.3	—	—

(11) 新型コロナウイルス感染症による教育についての不安

問 17 新型コロナウイルス感染症の流行に際し、三田市の子どもたちの教育について不安に感じていることは何ですか。(主なものを3つまで〇)

新型コロナウイルス感染症による教育についての不安について子どもの年代別でみると、年代に関わらず「学習保障に関すること」が最も高く、また「運動不足・体力の低下など健康保持に関すること」「対面によるコミュニケーション不足に関すること」「生活習慣のみだれに関すること」といった、休校が続いたことによる不安が挙げられています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、新型コロナウイルス感染症による教育についての不安

単位：%

区分	回答者数(件)	学習保障に関すること	心のケアに関すること	対面によるコミュニケーション不足に関すること	運動不足・体力の低下など健康保持に関すること	生活習慣のみだれに関すること	学校行事に関すること	部活動に関すること	ICT環境整備・オンライン指導に関すること	学校での感染症対策に関すること	その他	無回答
就学前の子ども	368	47.3	25.3	43.8	45.7	25.8	38.0	2.7	21.7	18.5	1.6	1.9
小学生	410	59.5	18.8	30.7	47.1	23.7	31.2	4.4	29.0	14.9	3.4	1.2
中学生	190	60.0	16.3	27.9	31.6	35.8	33.7	10.5	29.5	11.1	4.2	1.1
高校生	187	48.7	17.6	35.3	29.9	33.2	33.7	14.4	24.6	16.6	4.3	0.5
その他	7	42.9	57.1	28.6	85.7	42.9	—	—	28.6	14.3	—	—

3 家庭、地域での子育てについて

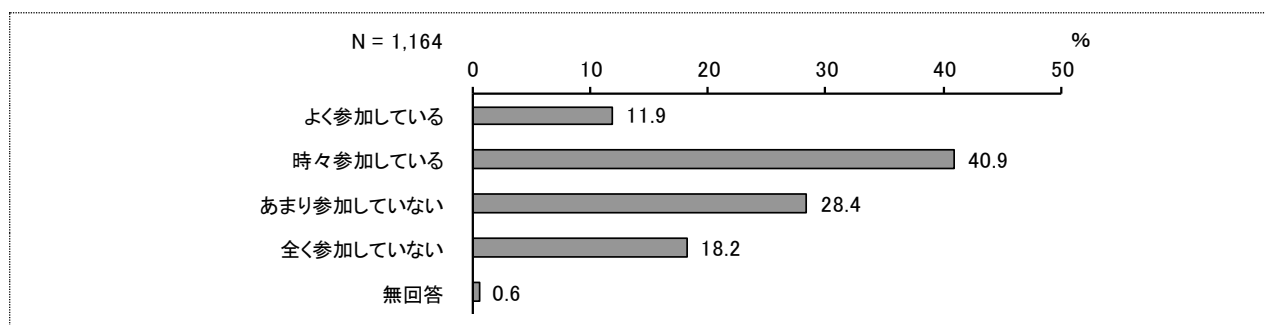
(1) 地域行事への参加

問 18 地域の行事にお子さんと一緒に参加していますか。(1つに○)

地域行事への参加については、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた“参加している”の割合が52.8%、「あまり参加していない」と「全く参加していない」をあわせた“参加していない”の割合が46.6%となっています。

子どもの年代別でみると「全く参加していない」人は、高校生で多いものの、就学前の子どもでも約2割にのぼっており、地域とのつながりを持ってない、持たない人が多いことが伺えます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、地域行事への参加

単位：%

区分	回答者数 (件)	よく参加している	時々参加している	あまり参加していない	全く参加していない	無回答
就学前の子ども	368	12.8	42.1	24.2	<u>20.7</u>	0.3
小学生	410	13.7	46.1	28.5	10.5	1.2
中学生	190	13.2	40.5	31.6	14.2	0.5
高校生	187	5.3	28.3	34.2	32.1	—
その他	7	—	28.6	—	71.4	—

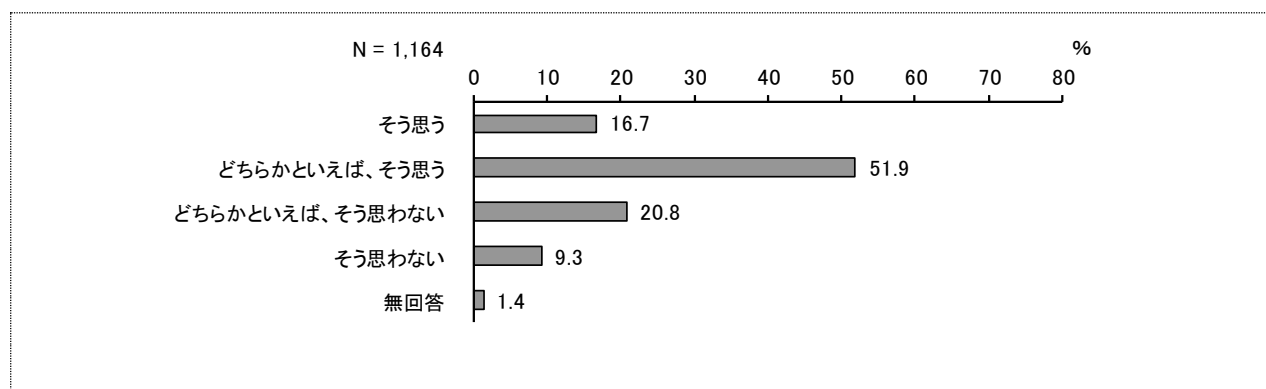
(2) 地域で子どもたちの教育に関わってくれる人は多いか

問 19 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、子どもたちの教育に関わってくれる人が多いと思いますか。(1つに○)

地域で子どもたちの教育に関わってくれる人は多いかについては、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」をあわせた“多いと思う”の割合が68.6%、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」をあわせた“多いとは思わない”の割合が30.1%となっています。

子どもの年代別で見ると、特に小学校においては、約8割が“多いと思う”と回答しており、地域と学校のつながりが強いことが伺えます。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、地域で子どもたちの教育に関わってくれる人は多いか

単位：%

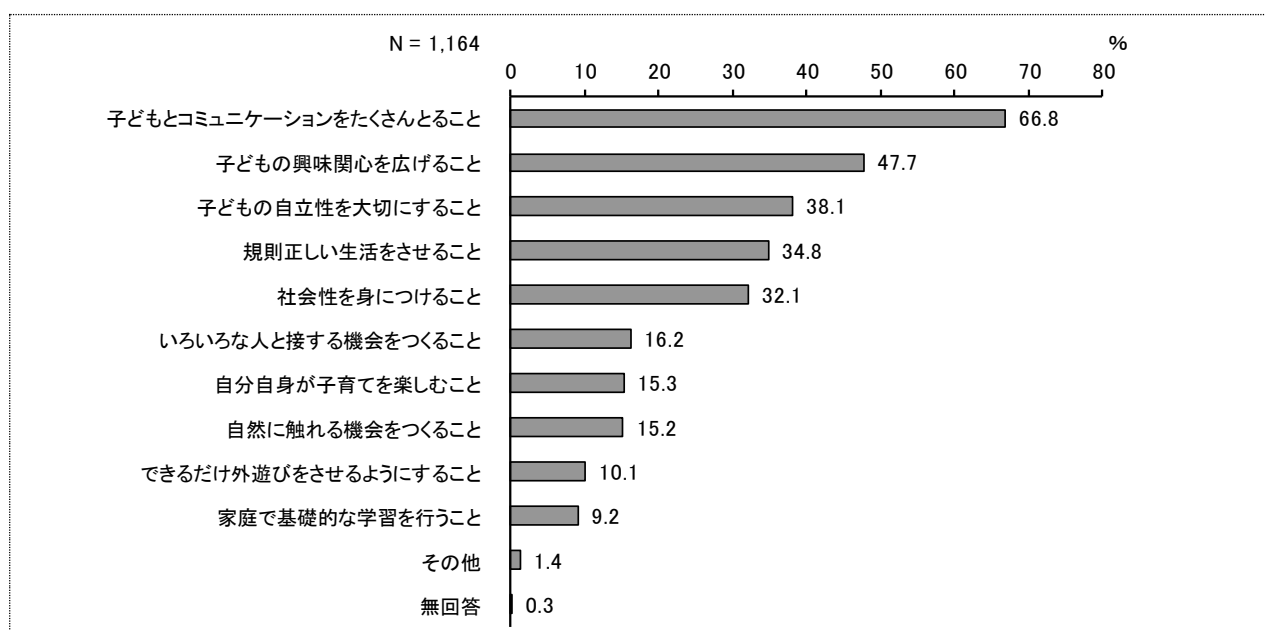
区分	回答者数 (件)	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない	無回答
就学前の子ども	368	10.9	43.2	30.2	13.0	2.7
小学生	410	21.5	57.1	14.6	5.9	1.0
中学生	190	17.4	55.8	18.4	7.9	0.5
高校生	187	17.6	54.0	17.6	10.2	0.5
その他	7	—	57.1	28.6	14.3	—

(3) 子育てで大切にしていること

問 20 あなたが子育てで大切にしていることはどんなことですか。
(主なもの3つまで○)

子育てで大切にしていることについて子どもの年代別で見ると、「子どもとコミュニケーションをたくさんとること」の割合がすべての年代で最も高く、次に中学生以上では「子どもの自立性を大切にすること」、小学生以下では「子どもの興味関心を広げること」となっており、中学生以上では自分の目標に向かって活動すること、小学生以下ではさまざまな可能性を見い出すことが大切にされています。

○全体集計



○子どもの年代別にみた、子育てで大切にしていること

単位：%

区分	回答者数 (件)	子どもとコミュニケーションをたくさんとること	子どもの自立性を大切にすること	規則正しい生活をさせること	社会性を身につけること	できるだけ外遊びをさせるようにすること	自然に触れる機会をつくること	いろいろな人と接する機会をつくること	子どもの興味関心を広げること	家庭で基礎的な学習を行うこと	自分自身が子育てを楽しむこと	その他	無回答
就学前の子ども	368	72.6	31.5	30.2	22.6	15.2	23.6	19.0	54.3	6.5	16.3	1.4	0.3
小学生	410	61.2	37.8	38.0	34.1	9.0	13.9	12.9	50.2	12.4	14.9	0.5	0.7
中学生	190	67.9	43.7	39.5	38.9	8.4	8.9	14.7	40.5	9.5	14.7	1.1	—
高校生	187	66.3	45.5	32.1	38.0	4.3	7.5	19.8	37.4	7.5	15.0	3.7	—
その他	7	85.7	57.1	42.9	71.4	—	14.3	—	14.3	—	14.3	—	—

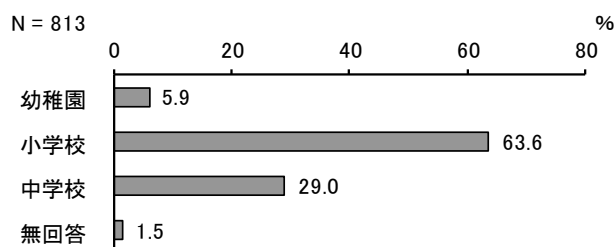
III 教職員アンケート調査

1 回答者の基本属性

問1 あなたの勤務先はどちらですか。(1つに○)

①勤務先

勤務先については、「小学校」の割合が63.6%と最も高く、次いで「中学校」の割合が29.0%となっています。

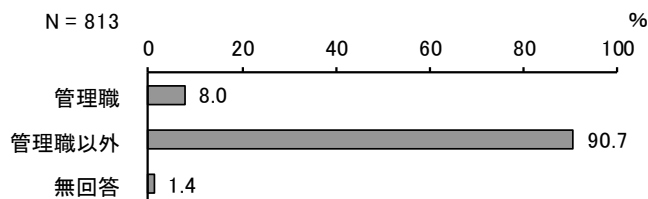


※特別支援学校については、小学部は「小学校」に、中学部・高等部は「中学校」に含まれています。

問2 あなたの職種を教えてください。(1つに○)

②職種

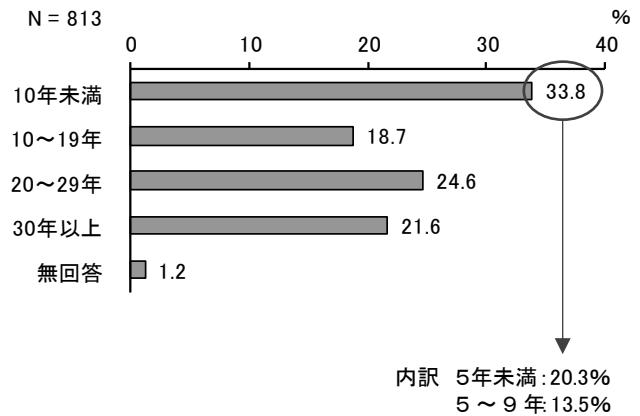
職種については、「管理職」の割合が8.0%、「管理職以外」の割合が90.7%となっています。



問3 あなたの経験年数を教えてください。(1つに○)

③経験年数

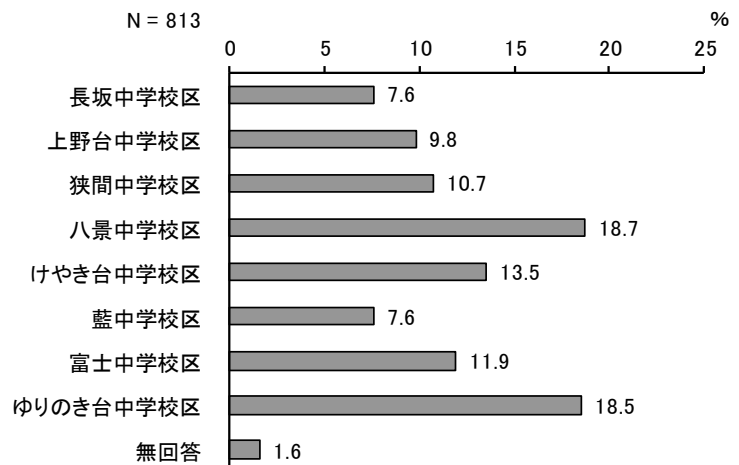
経験年数については、「5年未満」と「5～9年」をあわせた“10年未満”の割合が3割を超えており、若手職員が多い反面、その指導者となる10～19年の職員が少ないことが伺えます。そのため、経験を積んだ教職員の育成が今後の課題と考えられます。



問4 あなたが勤務している学校園はどの地域ですか。(1つに○)

④勤務している学校区

中学校区ごとの教職員の配置の状況は右グラフのとおりです。



※特別支援学校については、富士中学校区に含まれています。

2 教職員の勤務環境の状況

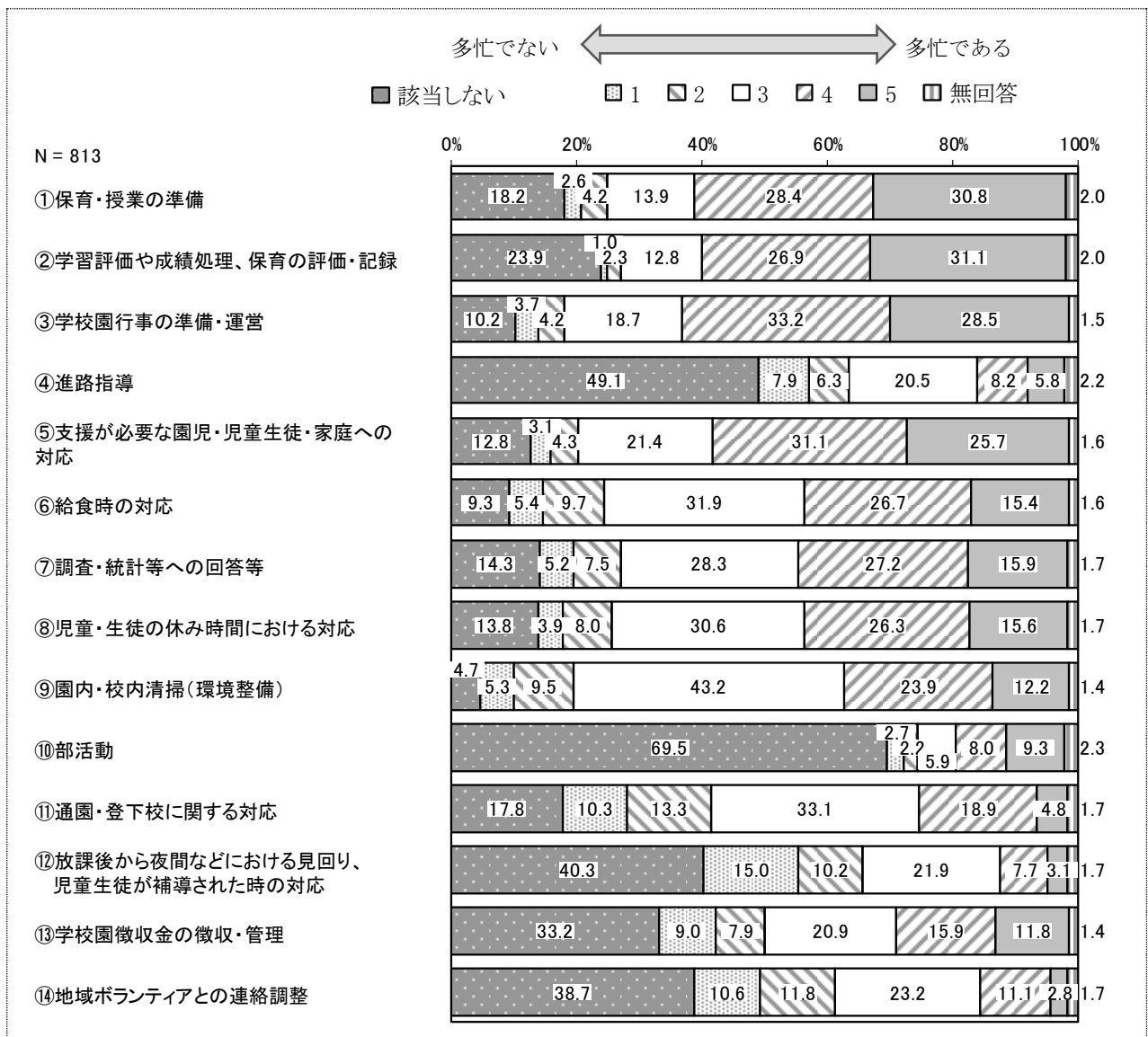
(1) 多忙な業務

問5 あなたはご自身の職務について、「現在の状況」として、どの業務が多忙ですか。また、「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。「該当なし」の場合は「0」に○をつけてください。

①現在の状況

多忙な業務を5段階で評価し、“多忙でない”（「1」と「2」の合計）と“多忙である”（「4」と「5」の合計）をみると、『①保育・授業の準備』『②学習評価や成績処理、保育の評価・記録』『③学校園行事の準備・運営』『⑤支援が必要な園児・児童生徒・家庭への対応』といった教職員としての本来の業務で“多忙である”の割合が高く、約6割を占めています。また、『⑫放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応』『⑭地域ボランティアとの連絡調整』では“多忙でない”の割合が、“多忙である”の割合よりも高くなっています。

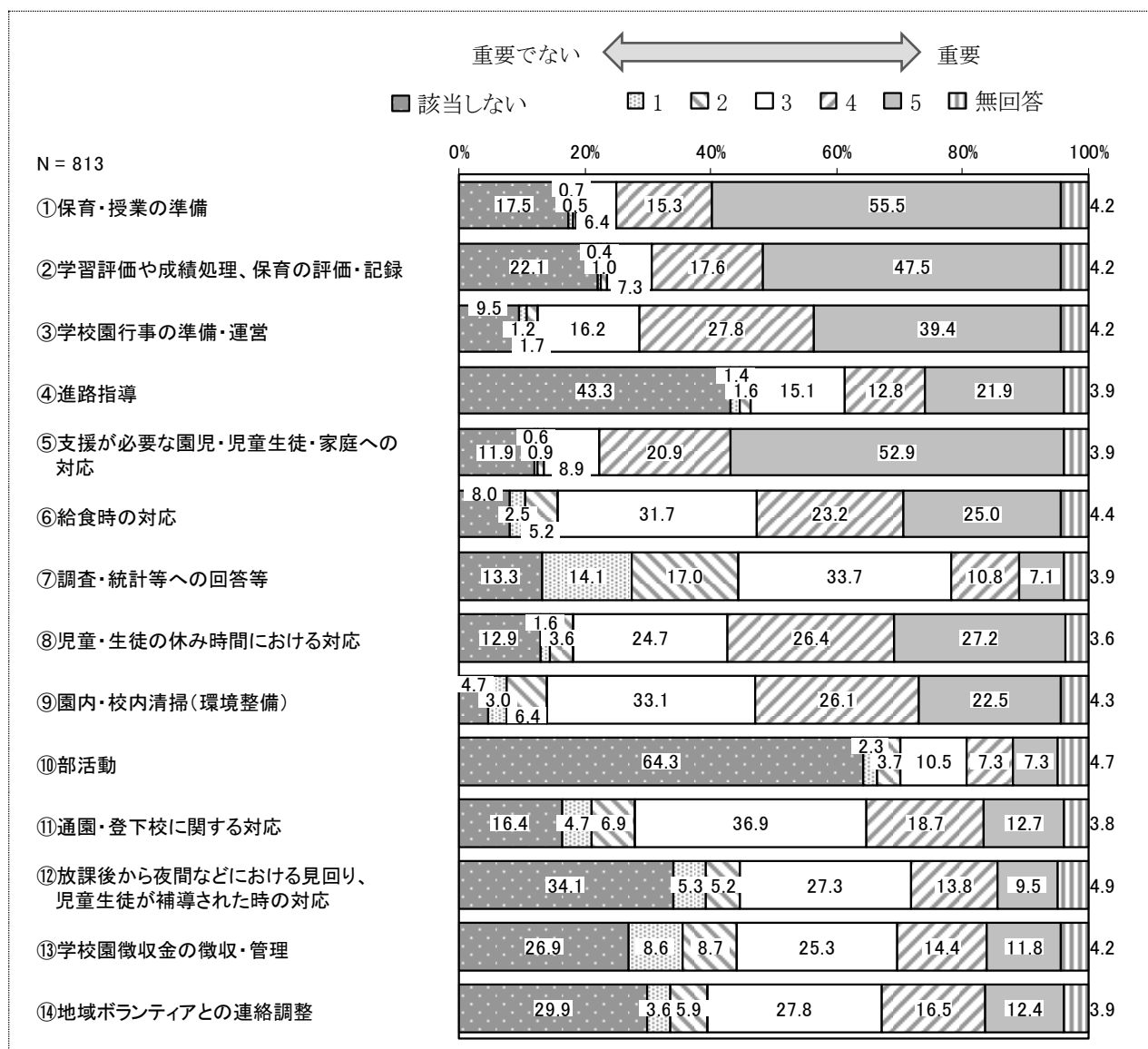
○全体集計



②今後の重要度

職務の重要度を5段階で評価し、“重要でない”（「1」と「2」の合計）と“重要”（「4」と「5」の合計）の割合をみると、『①保育・授業の準備』『②学習評価や成績処理、保育の評価・記録』『③学校園行事の準備・運営』『⑤支援が必要な園児・児童生徒・家庭への対応』といった多忙な業務で“重要”の割合が高く、約7割となっています。

○全体集計



3 教育や学習に関する取組

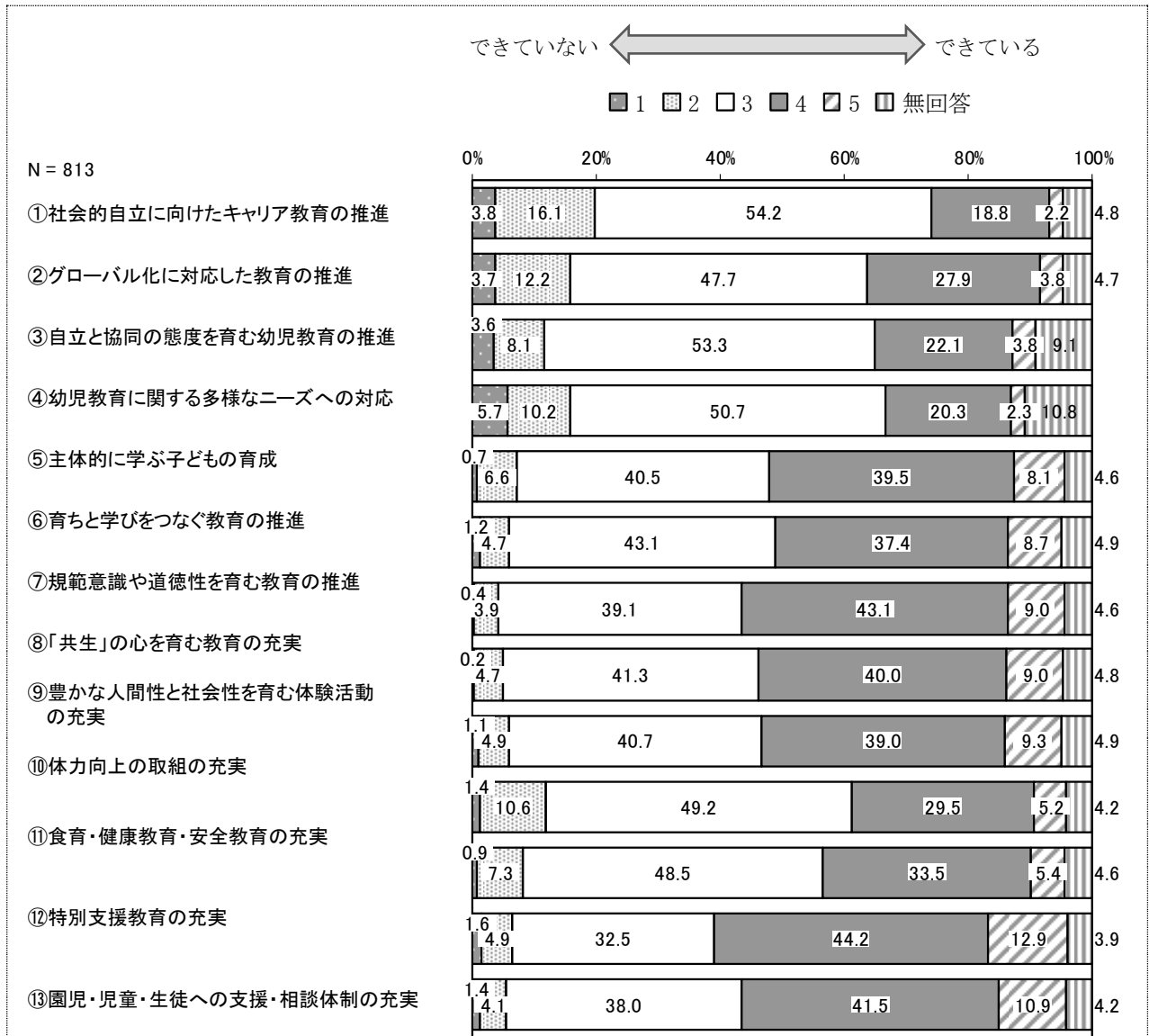
(1) 三田市の教育の中で充実する必要がある取組

問6 ①～⑬の三田市の教育の取組の中で、「現在の状況」（できていると感じるもの）と、今後「充実する必要があるもの」はどれですか。
あなたの考えに最も近い番号を、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

①現在の状況

三田市の教育の取組の中で、現在“できていない”（「1」と「2」の合計）と“できている”（「4」と「5」の合計）の割合をみると、『⑫特別支援教育の充実』で“できている”の割合が高く、約6割となっています。一方、『⑬職員が子ども一人一人に向き合うための環境整備（勤務時間の適正化等）』では“できていない”の割合が高く、4割半ばとなっています。

○全体集計

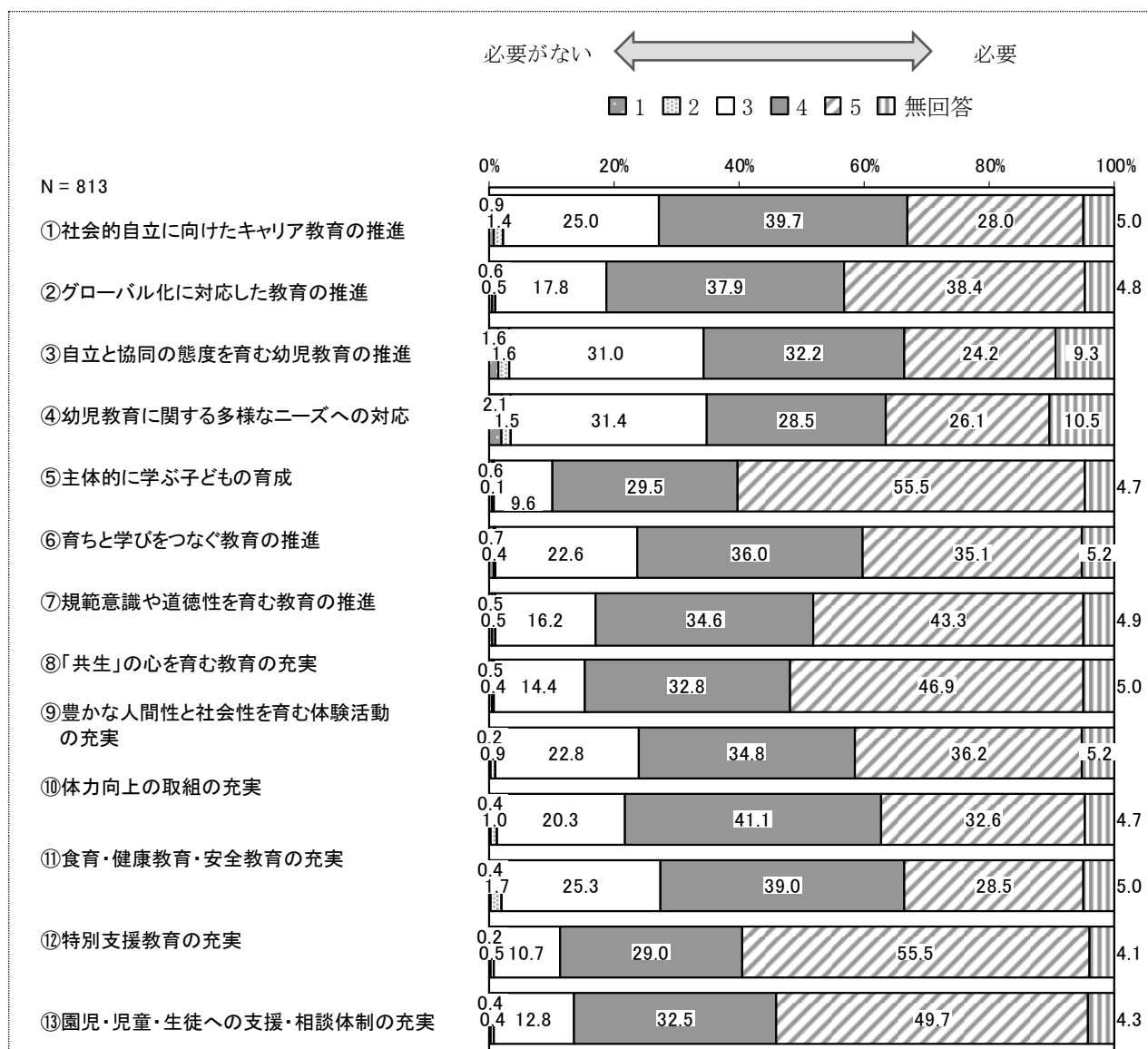


②充実する必要がある取組

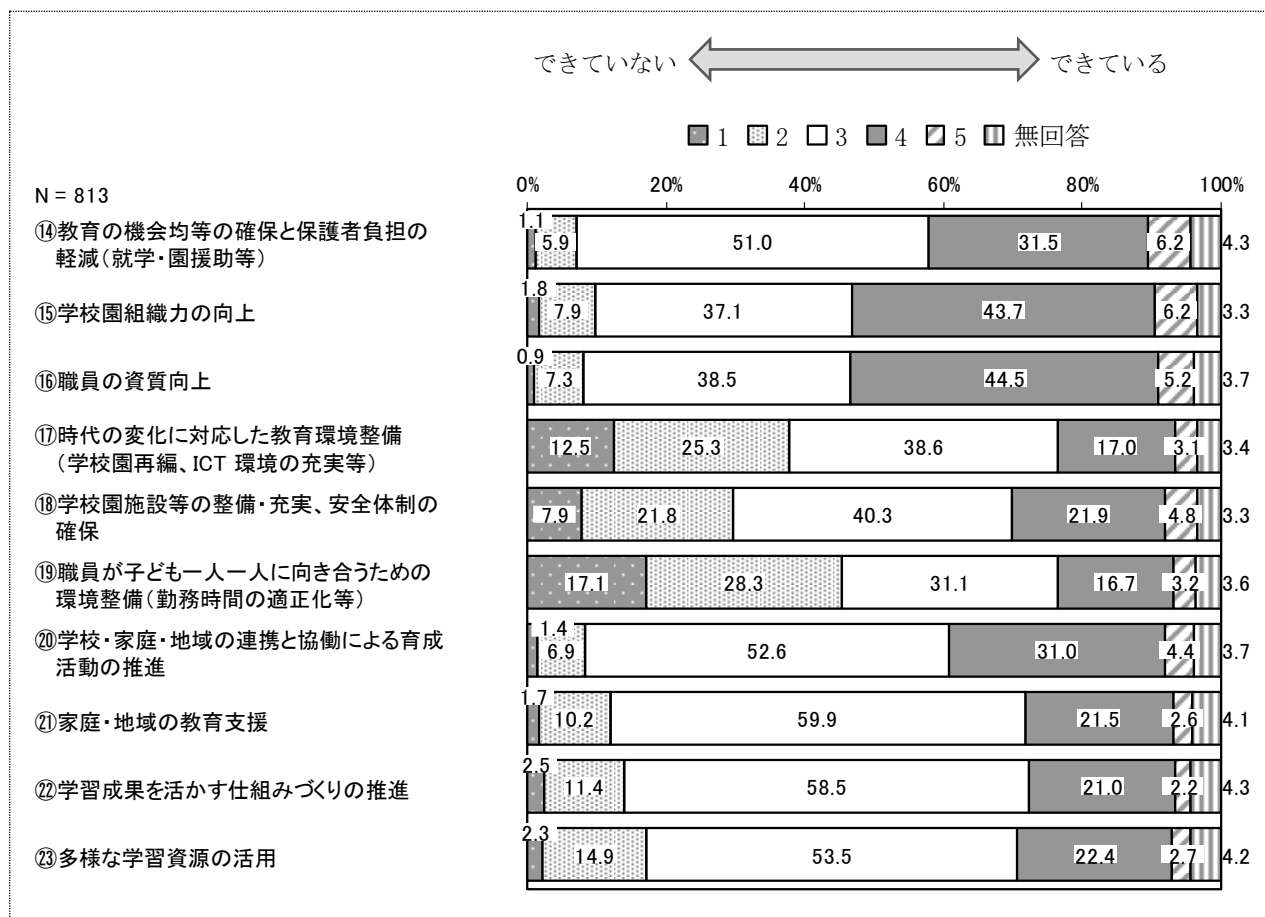
充実する必要がある取組について、“必要がない”（「1」と「2」の合計）と“必要”（「4」と「5」の合計）の割合をみると、すべての項目で“必要がない”の割合は1割未満と低く、“必要”の割合が5割を超えています。

また、『⑰時代の変化に対応した教育環境整備（学校園再編、ICT環境の充実等）』、『⑱学校園施設等の整備・充実、安全体制の確保』、『⑲職員が子ども一人一人に向き合うための環境整備（勤務時間の適正化等）』は“できている”の割合が低い一方で、今後充実が“必要”の割合が高く、「重要であるのにできていない」という結果となっており、今後、特に重点的に取り組む必要性が高いことが伺えます。

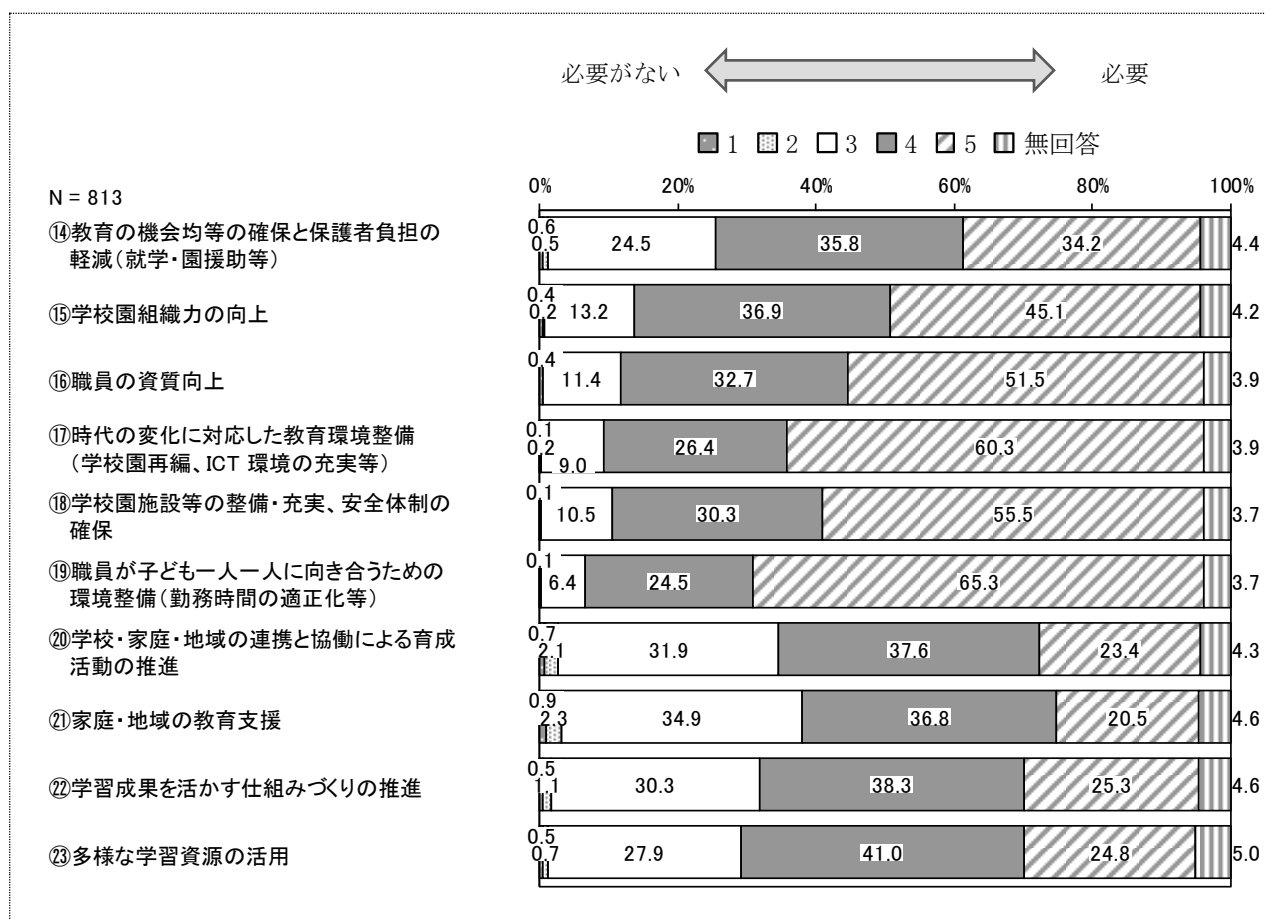
○全体集計



①現在の状況（つづき）



②充実する必要がある取組（つづき）

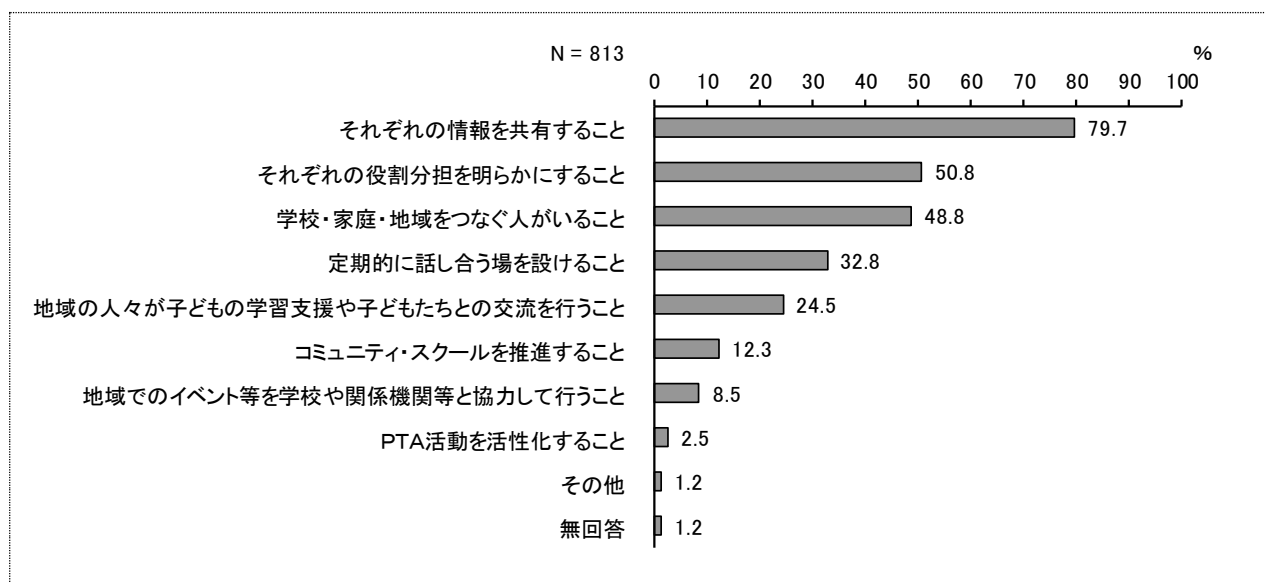


(2) 学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと

問7 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思えますか。(主なもの3つまで○)

学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なことについて勤務先別にみると、すべての勤務先で保護者と同様「それぞれの情報を共有すること」の割合が最も高くなっているほか、幼稚園、小学校では「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」が2位となっており、連携をコーディネートする人が求められています。また、小学校、中学校では「それぞれの役割分担を明らかにすること」の割合が高く、地域や家庭での役割の明確化が求められています。

○全体集計



○勤務先別にみた、学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと

単位：%

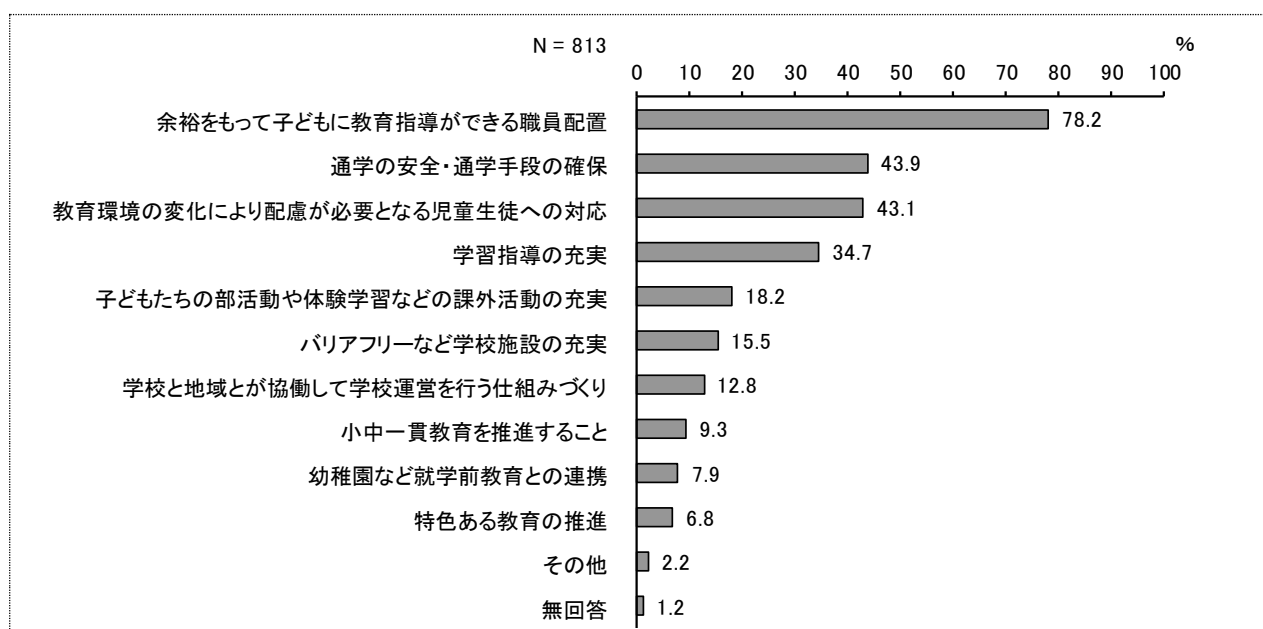
区分	回答者数(件)	それぞれの役割分担を明らかにすること	それぞれの情報を共有すること	定期的話し合う場を設けること	学校・家庭・地域をつなぐ人がいること	コミュニティ・スクールを推進すること	地域の人々が子どもの学習支援や子どもたちとの交流を行うこと	PTA活動を活性化すること	地域でのイベント等を学校や関係機関等と協力して行うこと	その他	無回答
幼稚園	48	20.8	97.9	31.3	58.3	14.6	29.2	—	8.3	—	—
小学校	517	51.5	81.4	35.6	51.8	12.8	22.8	1.5	7.5	1.5	1.2
中学校	236	55.1	73.7	27.5	41.1	11.0	27.5	5.1	11.0	0.4	0.8

(3) 小学校・中学校の再編を進める上での必要な配慮

問8 三田市では各学校の児童生徒数の減少による小規模化が課題となっており、子どもの教育環境を保障するため、今後、三田市立小中学校の再編を進めていく上で、市はどのような取組に配慮していくことが望ましいと思いますか。
(主なものを3つまで○)

小学校・中学校の小規模化の課題を解決するため、今後学校再編を進めていく上での必要な配慮について、勤務先別にみるとすべての勤務先で「余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置」の割合が最も高く、次いで小学校では「教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応」、中学校では「通学の安全・通学手段の確保」の割合が高くなっており、学校再編を進めていく上で、特に配慮していく必要があると考えられます。

○全体集計



○勤務先別にみた、小学校・中学校の小規模化において必要な配慮

単位：%

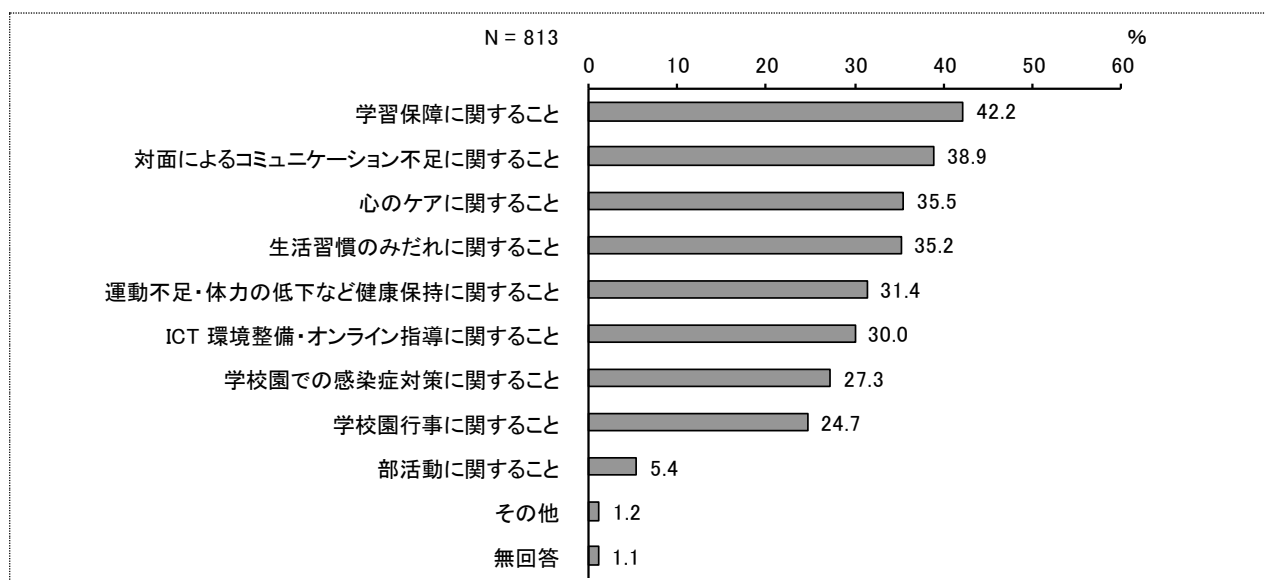
区分	回答者数(件)	学習指導の充実	子どもたちの部活動や体験学習などの課外活動の充実	必要となる児童生徒への対応	教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応	通学の安全・通学手段の確保	学校と地域とが協働して学校運営を行う仕組みづくり	余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置	小中一貫教育を推進すること	幼稚園など就学前教育との連携	バリアフリーなど学校施設の充実	特色ある教育の推進	その他	無回答
幼稚園	48	16.7	18.8	31.3	43.8	18.8	64.6	2.1	58.3	6.3	10.4	—	2.1	
小学校	517	36.2	14.7	49.1	41.0	13.7	78.3	9.7	6.2	16.1	6.4	2.3	1.4	
中学校	236	34.7	26.7	33.1	50.8	9.3	80.1	10.2	1.7	15.7	7.2	2.5	0.4	

(4) 新型コロナウイルス感染症による教育についての不安

問9 新型コロナウイルス感染症の流行に際し、三田市の子どもたちの教育について不安に感じていることは何ですか。(主なもの3つまで○)

新型コロナウイルス感染症による教育についての不安について勤務先別にみると、幼稚園では「学校園での感染症対策に関すること」の割合が高く、ふれあいの多い幼稚園での感染が不安視されています。また、小学校、中学校では「学習保障に関すること」や「対面によるコミュニケーション不足に関すること」の割合が高く、学習の遅れや教師と子どもとのふれあいの減少が懸念されています。また、「心のケアに関すること」や「運動不足・体力の低下など健康保持に関すること」を不安視する割合が、年齢が低くなるにつれ高くなる傾向が伺えます。

○全体集計



○勤務先別にみた、新型コロナウイルス感染症による教育についての不安

単位：%

区分	回答者数(件)	学習保障に関すること	心のケアに関すること	対面によるコミュニケーション不足に関すること	運動不足・体力の低下など健康保持に関すること	生活習慣のみだれに関すること	学校園行事に関すること	部活動に関すること	ICT 環境整備・オンライン指導に関すること	学校園での感染症対策に関すること	その他	無回答
幼稚園	48	33.3	39.6	33.3	37.5	6.3	39.6	—	16.7	41.7	—	2.1
小学校	517	46.6	36.2	41.0	34.6	38.1	23.6	0.6	29.0	26.5	1.4	1.0
中学校	236	33.9	33.9	35.6	23.3	35.2	24.6	16.9	34.3	25.8	1.3	0.8

IV 共通集計

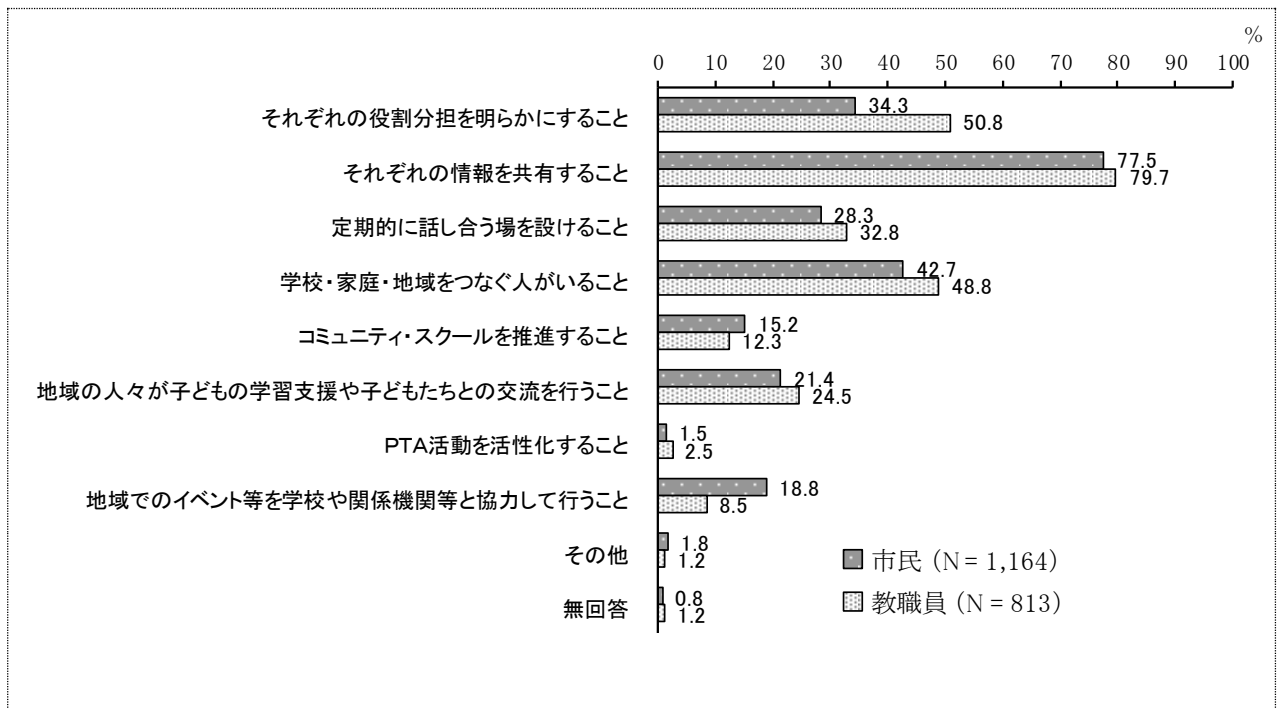
(1) 学校・家庭・地域が相互の連携・協力において大切なこと

学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思えますか。(主なもの3つまで○)

(市民：問15、教職員：問7)

市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「地域でのイベント等を学校や関係機関等と協力して行うこと」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「それぞれの役割分担を明らかにすること」「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」の割合が高くなっており、学校・家庭・地域をつなぐコーディネーター的な役割を担う人材の育成が重要であると考えられます。

○全体集計



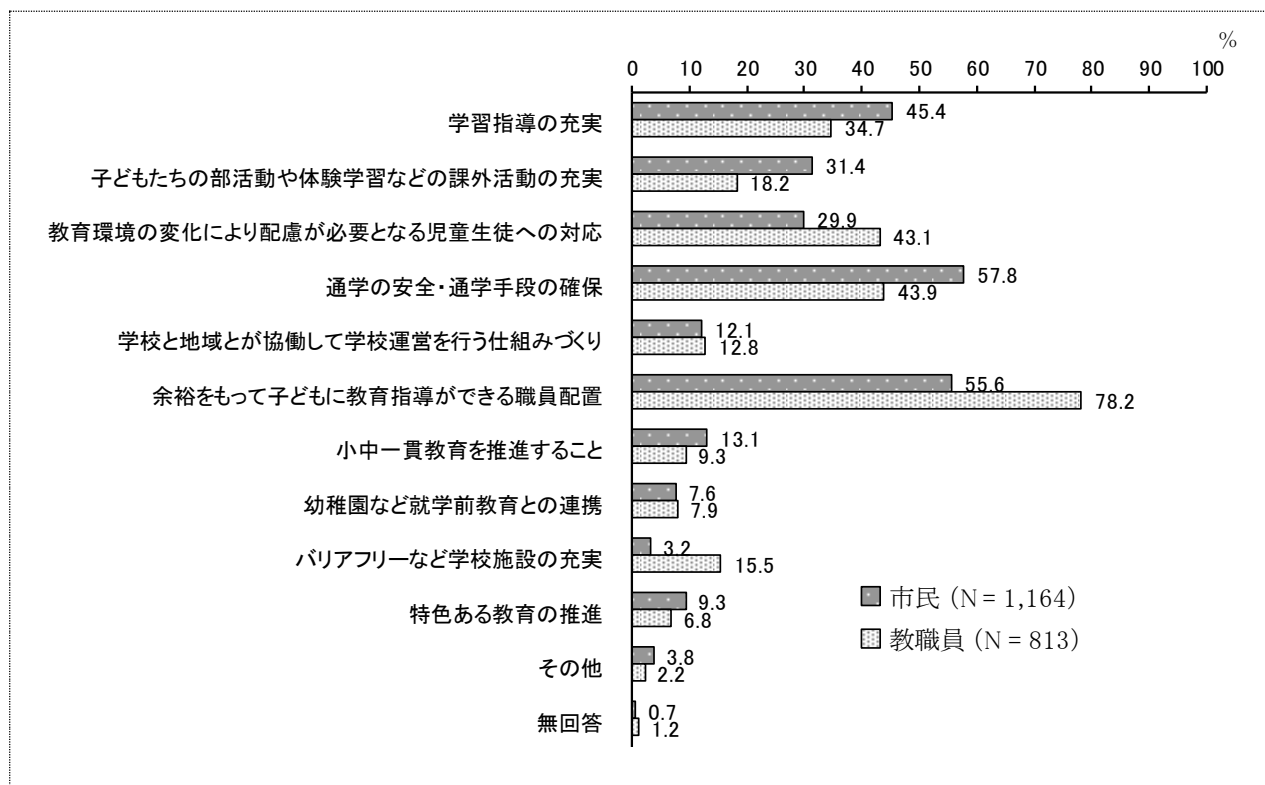
(2) 小学校・中学校の小規模化において必要な配慮

三田市では各学校の児童生徒数の減少による小規模化が課題となっており、子どもの教育環境を保障するため、今後、三田市立小中学校の再編を進めていく上で、市はどのような取組に配慮していくことが望ましいと思いますか。(主なもの3つまで○)

(市民：問16、教職員：問8)

市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「学習指導の充実」「子どもたちの部活動や体験学習などの課外活動の充実」「通学の安全・通学手段の確保」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応」「余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置」「バリアフリーなど学校施設の充実」の割合が高くなっています。

○全体集計



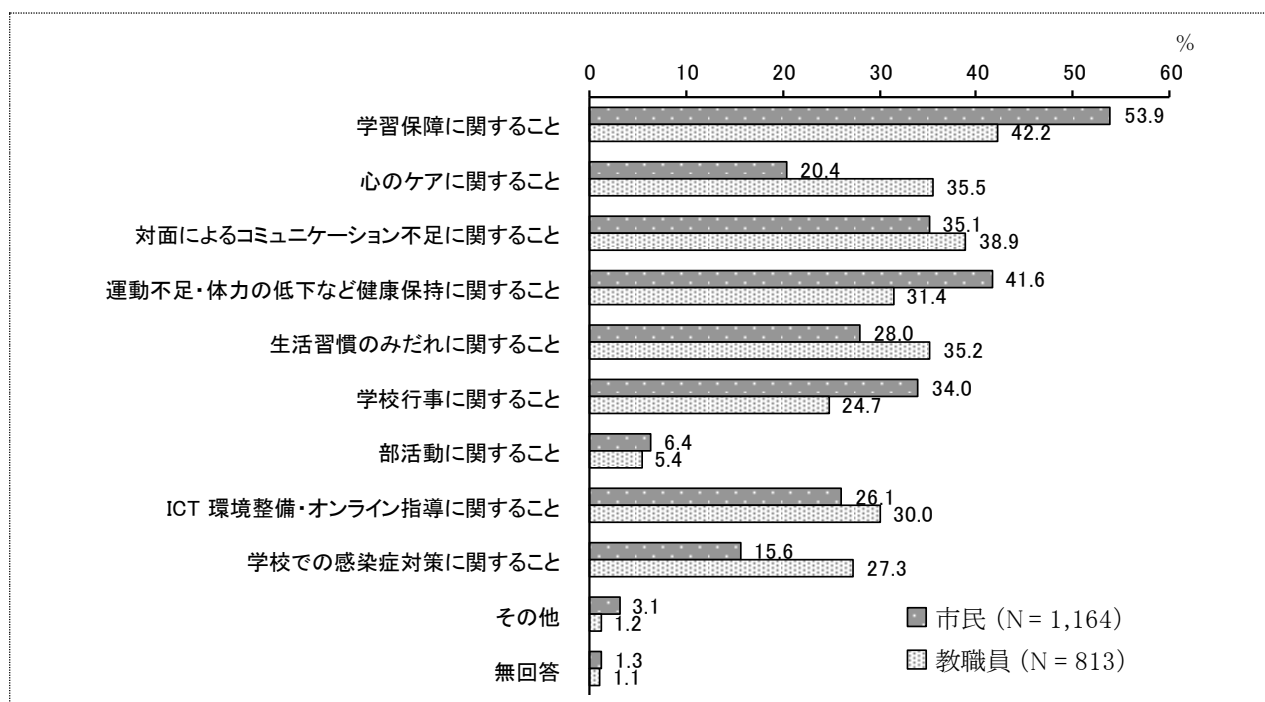
(3) 新型コロナウイルス感染症による教育についての不安

新型コロナウイルス感染症の流行に際し、三田市の子どもたちの教育について不安に感じていることは何ですか。(主なもの3つまで○)
(市民：問17、教職員：問9)

市民、教職員ともに「学習保障に関すること」を最も不安視しています。

市民と教職員を比較すると、教職員に比べ、市民で「学習保障に関すること」「運動不足・体力の低下など健康保持に関すること」「学校園行事に関すること」の割合が高くなっています。また、市民に比べ、教職員で「心のケアに関すること」「生活習慣のみだれに関すること」「学校園での感染症対策に関すること」の割合が高くなっています。

○全体集計



V 小学5年生・中学2年生調査

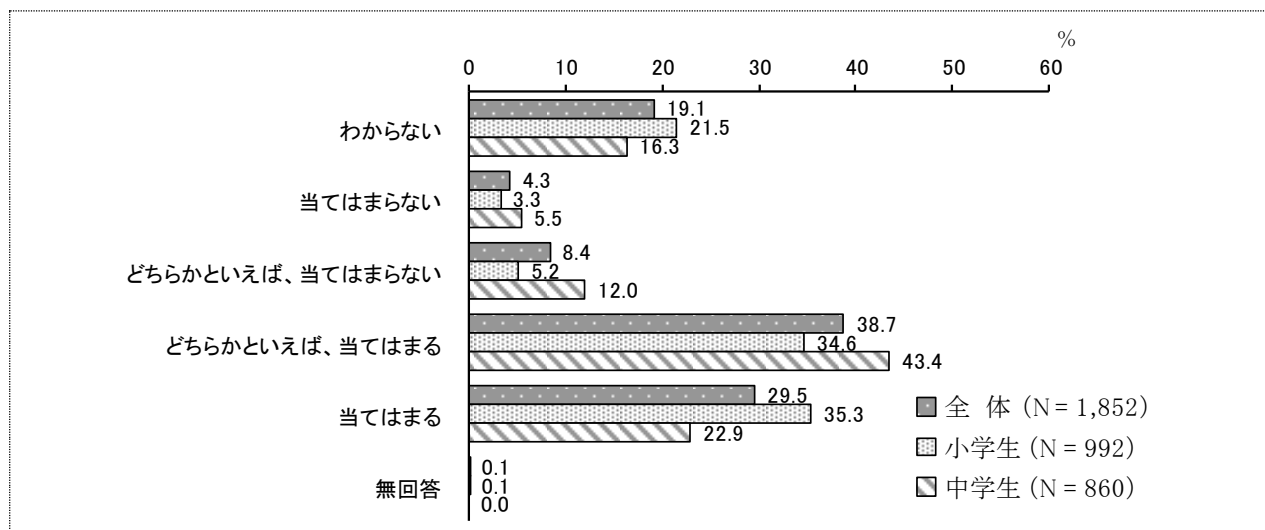
(1) 自分の長所

問1 あなたは自分に良いところがありますか

自分の長所については、「当てはまらない」と「どちらかといえば、当てはまらない」をあわせた“当てはまらない”の割合が12.7%、「どちらかといえば、当てはまる」と「当てはまる」をあわせた“当てはまる”の割合が68.2%となっています。

学年別にみると、小学生に比べ、中学生で“当てはまらない”の割合が高くなっています。

○全体・学年別集計



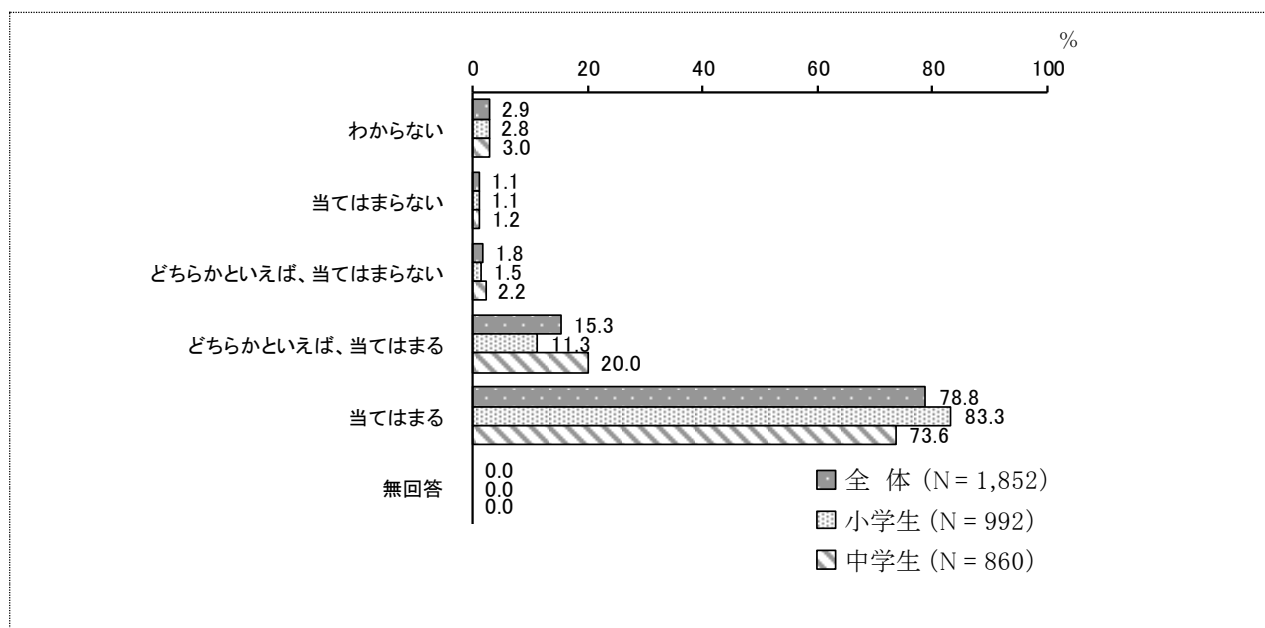
(2) 信頼できる友だちの有無

問2 あなたには信頼できる友だちがいますか

信頼できる友だちの有無については、「当てはまらない」と「どちらかといえば、当てはまらない」をあわせた“当てはまらない”の割合が2.9%、「どちらかといえば、当てはまる」と「当てはまる」をあわせた“当てはまる”の割合が94.1%となっています。

学年別にみると、大きな差異はみられません。

○全体・学年別集計



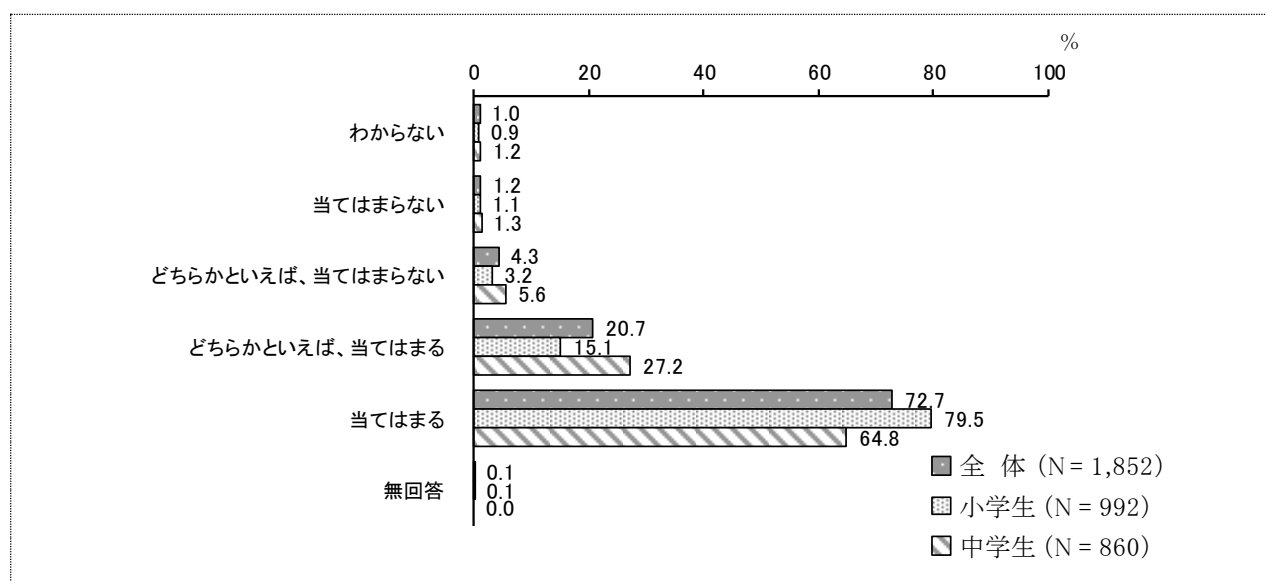
(3) 家族とよく話すか

問3 あなたは家族とよく話をしますか

家族とよく話すかについては、「当てはまらない」と「どちらかといえば、当てはまらない」をあわせた“当てはまらない”の割合が5.5%、「どちらかといえば、当てはまる」と「当てはまる」をあわせた“当てはまる”の割合が93.4%となっています。

学年別にみると、大きな差異はみられません。

○全体・学年別集計



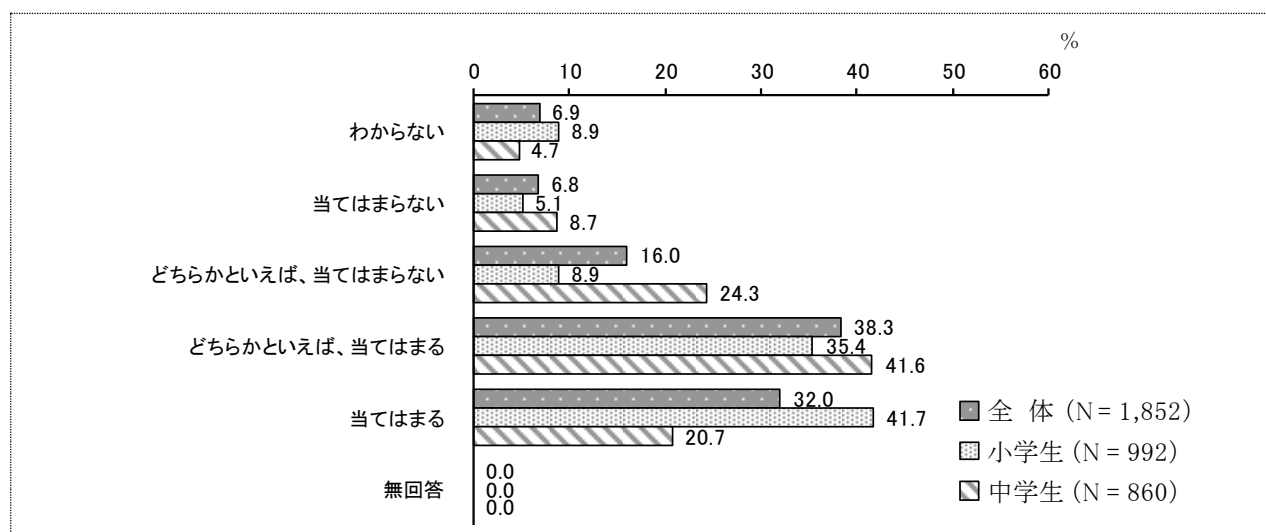
(4) 地域行事やイベントの参加意向

問4 あなたは地域の行事やイベントに参加したいと思いますか

地域行事やイベントの参加意向については、「当てはまらない」と「どちらかといえば、当てはまらない」をあわせた“当てはまらない”の割合が22.8%、「どちらかといえば、当てはまる」と「当てはまる」をあわせた“当てはまる”の割合が70.3%となっています。

学年別にみると、小学生に比べ、中学生で“当てはまらない”の割合が高くなっています。

○全体・学年別集計



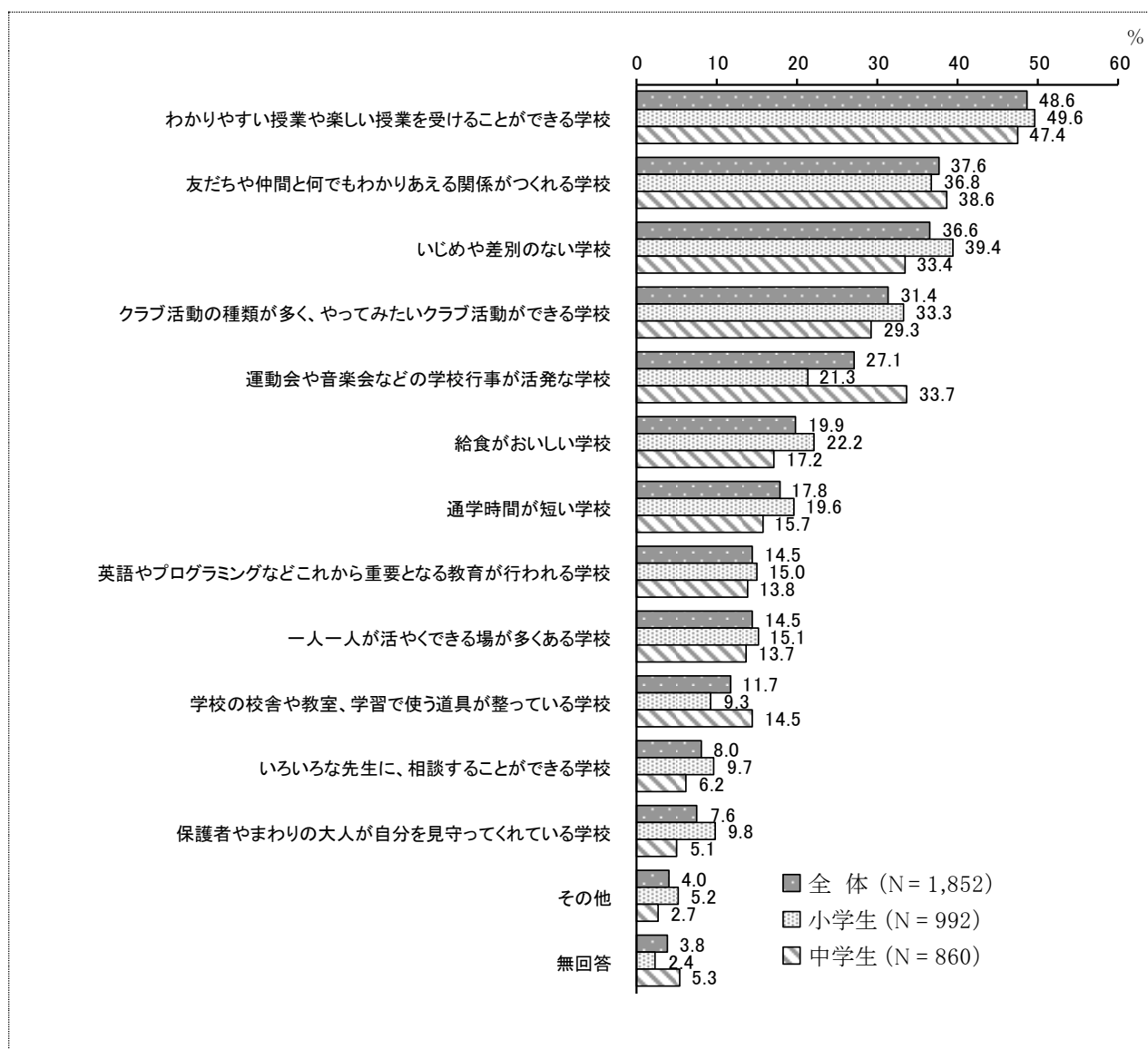
(5) 魅力を感じる学校

問5 あなたは、どのような学校に魅力を感じますか。主なもの3つまで○をつけてください。

魅力を感じる学校については、「わかりやすい授業や楽しい授業を受けることができる学校」の割合が48.6%と最も高く、次いで「友だちや仲間と何でもわかりあえる関係がしてくれる学校」の割合が37.6%、「いじめや差別のない学校」の割合が36.6%となっています。

学年別にみると、中学生に比べ、小学生で「いじめや差別のない学校」「給食がおいしい学校」の割合が高くなっています。また、小学生に比べ、中学生で「運動会や音楽会などの学校行事が活発な学校」「学校の校舎や教室、学習で使う道具が整っている学校」の割合が高くなっています。

○全体・学年別集計



VI 前回調査との比較（市民アンケート調査）

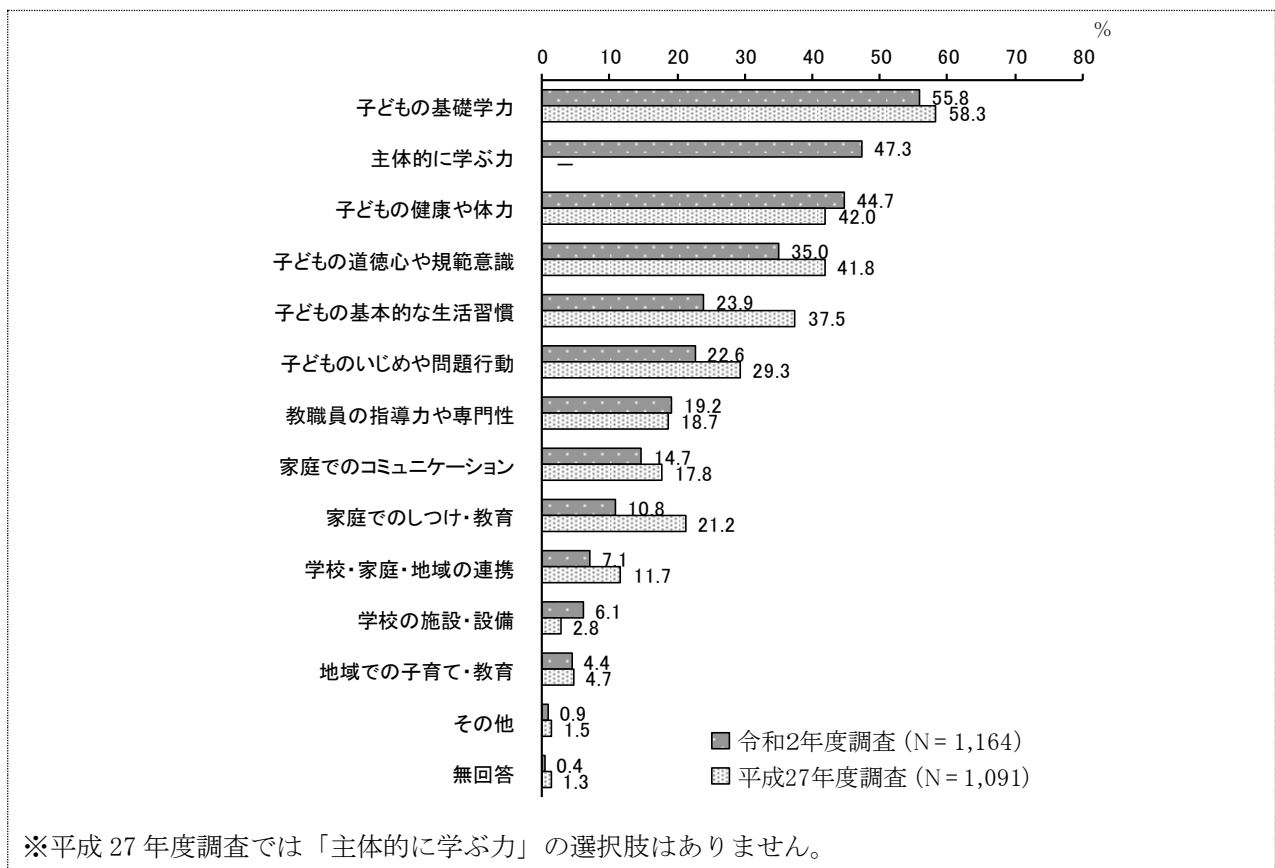
（１）子どもの教育について関心のあること

問7 子どもの教育について、関心のあることは何ですか。
（主なものを3つまで○）

平成27年度調査と同様に「子どもの基礎学力」に対する関心が最も高くなっており、基礎学力の定着に向けた取組が引き続き求められています。

前回調査と比較すると、「子どもの道徳心や規範意識」「子どもの基本的な生活習慣」「子どものいじめや問題行動」「家庭でのしつけ・教育」の割合が減少し、前回調査にはありませんが、「主体的に学ぶ力」が上位にきていることから、子どもの主体性に関心を持っている人が多いことが伺えます。

○前回調査との比較



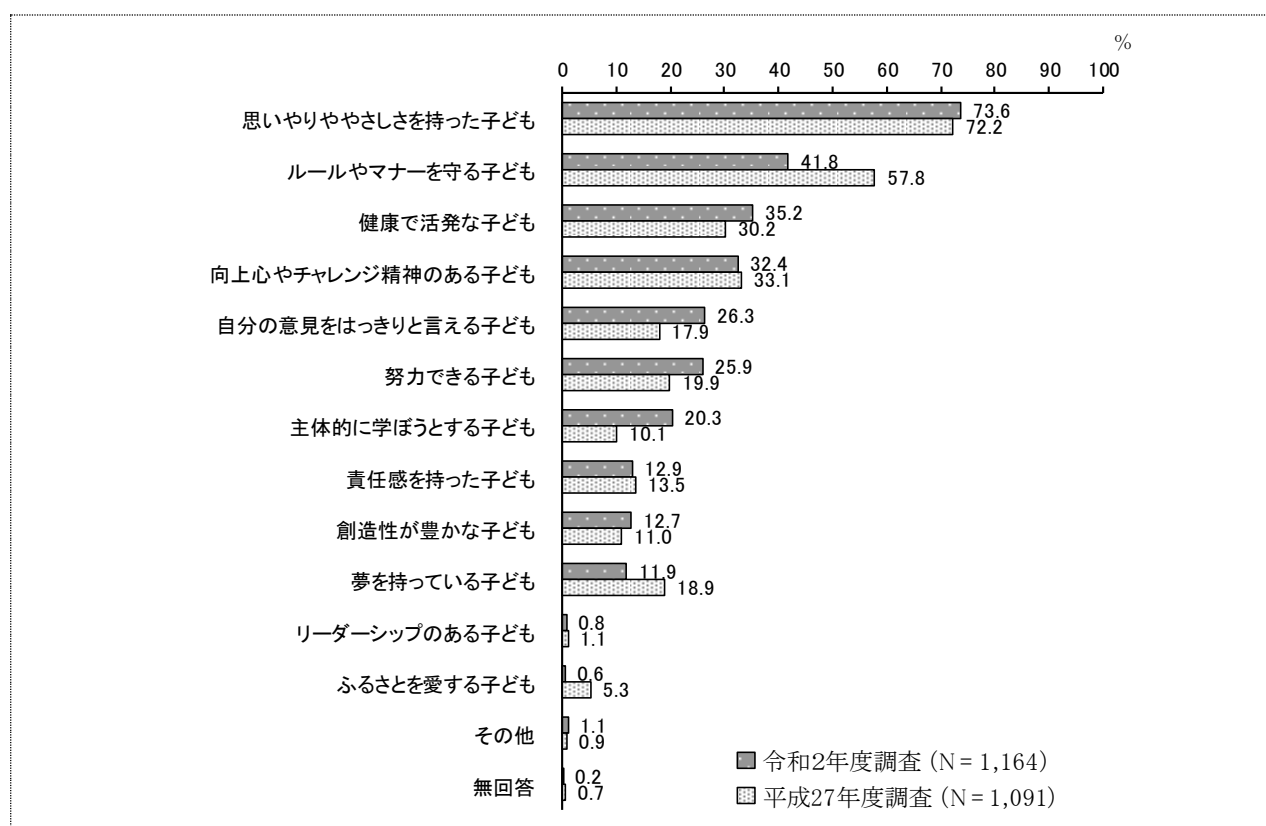
(2) 三田市の子どもたちに望む姿

問8 あなたは、子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

平成27年度調査と同様に「思いやりやさしさを持った子ども」が群を抜いて高くなっており、心の教育についての取組が引き続き求められています。

前回調査と比較すると、「自分の意見をはっきりと言える子ども」「努力できる子ども」「主体的に学ぼうとする子ども」の割合が増加しており、問7で「主体的に学ぶ力」が上位にきていることから、自ら学び、行動できる子どもになってもらいたいと思う人が多くなっていることが伺えます。

○前回調査との比較

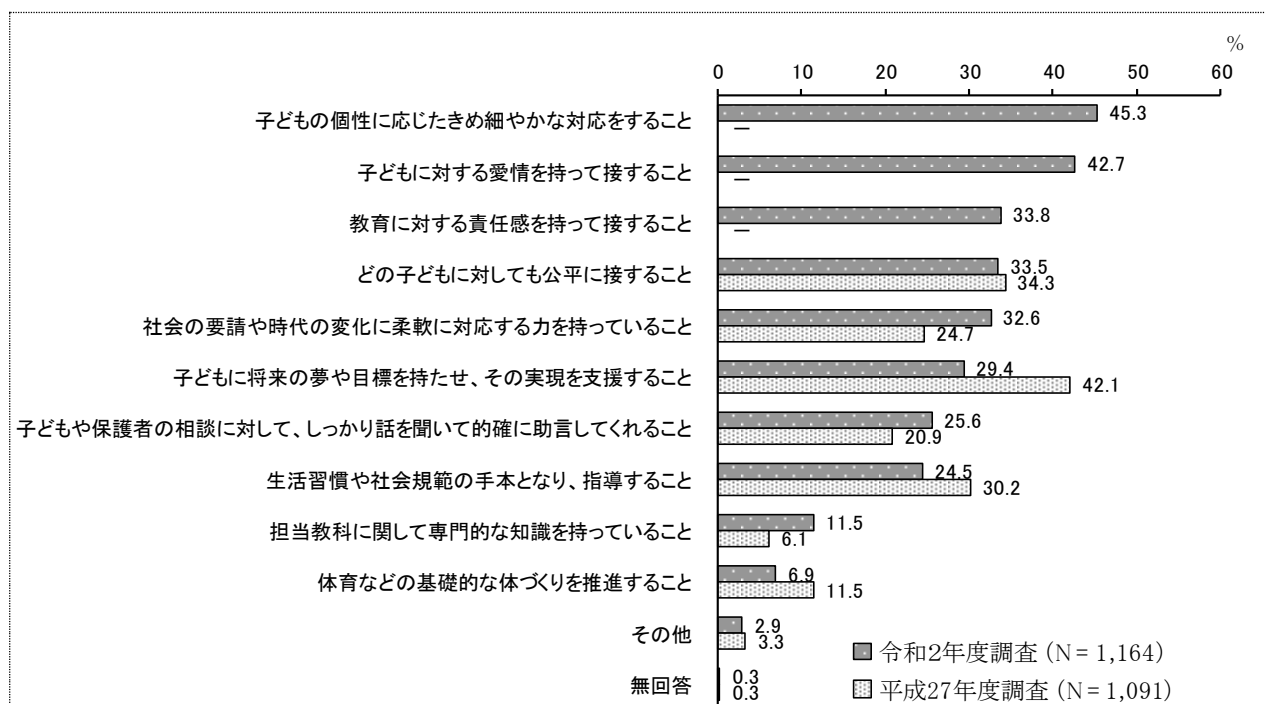


(3) 小・中学校に対しての要望

問11 あなたは、学校に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

平成27年度調査と比較すると、「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」「生活習慣や社会規範の手本となり、指導すること」の割合が減少しています。一方、「社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持っていること」「担当教科に関して専門的な知識を持っていること」の割合が増加し、平成27年度調査にはありませんが、「子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること」の割合が最も高くなっていることから、社会や時代の変化に合わせた子ども一人ひとりへの対応が望まれていることが伺えます。

○前回調査との比較



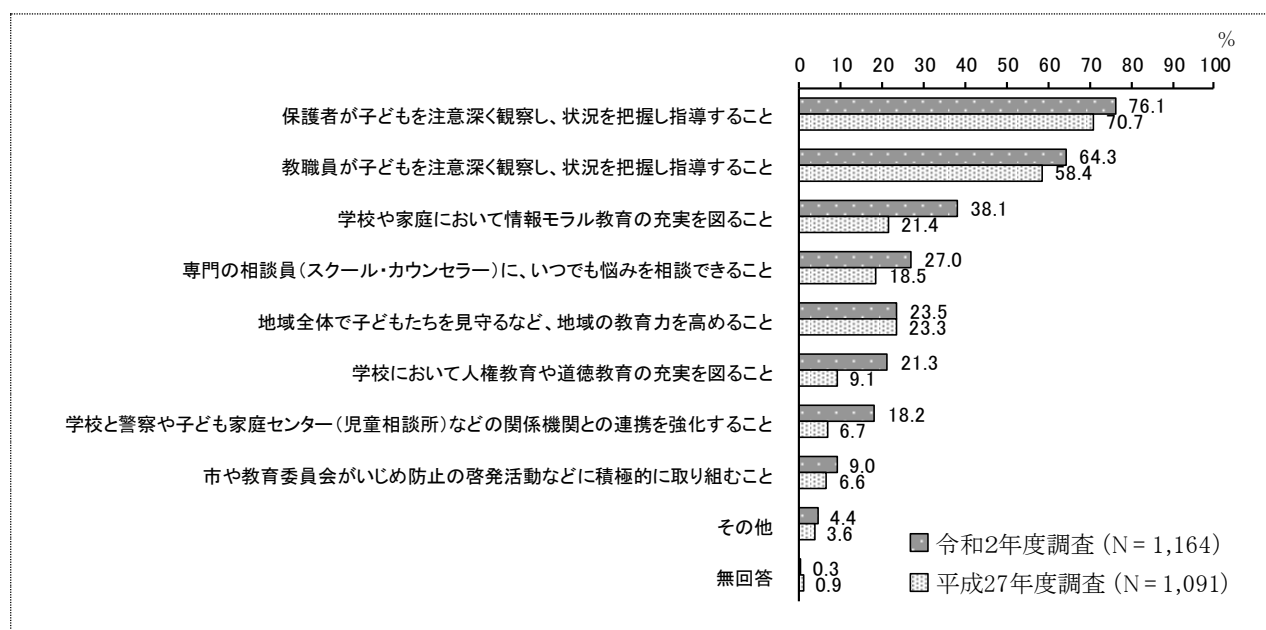
※平成27年度調査では「子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること」「子どもに対する愛情を持って接すること」「教育に対する責任感を持って接すること」の選択肢はありません。

(4) いじめや問題行動などを防止するために必要なこと

問 13 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

平成 27 年度調査と比較すると、特に「学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること」「学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること」「学校と警察や子ども家庭センター(児童相談所)などの関係機関との連携を強化すること」の割合が増加しており、学校や家庭での教育の充実や相談機関などとの連携が、必要だと思う人が多くなっていることが伺えます。

○前回調査との比較

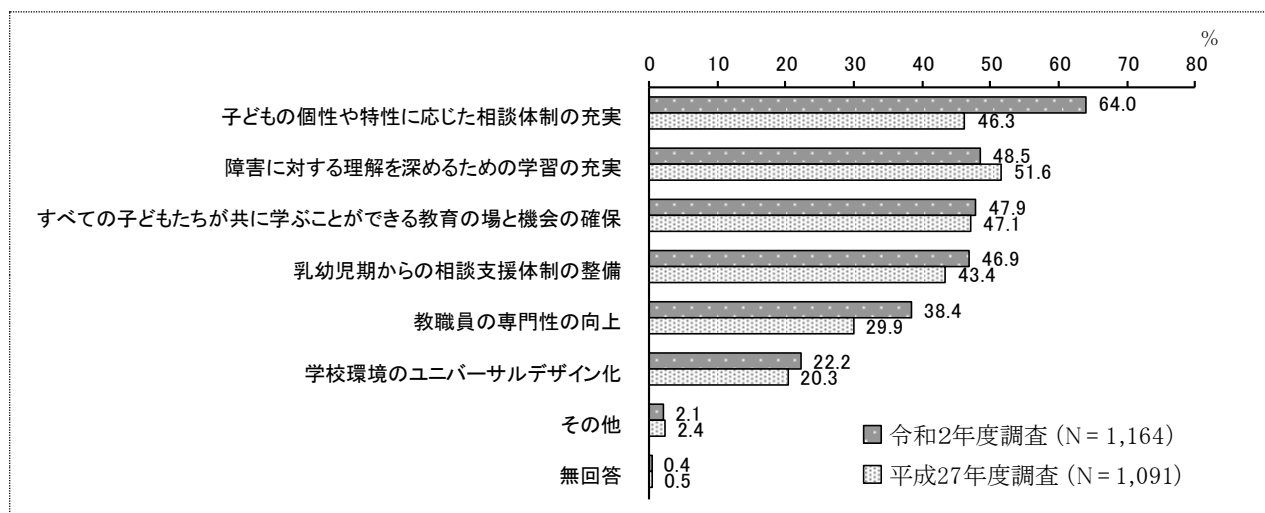


(5) 特別支援教育の充実のために必要な取り組み

問 14 あなたは、特別支援教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。
(主なものを3つまで○)

平成 27 年度調査と比較すると、「子どもの個性や特性に応じた相談体制の充実」「教職員の専門性の向上」の割合が増加していることから、専門性の高い先生による、子ども一人ひとりに合わせた相談体制の充実を望む人が多くなっていることが伺えます。

○前回調査との比較



VII 調査結果の概要

今回実施した「市民アンケート調査」及び「教職員アンケート調査」から、第2期計画の基本目標に基づき、以下のとおり調査結果の概要を整理しました。

1 子どもの教育や学習に関する取組

市民アンケート調査結果では、三田市民の教育についての関心事（P9）は、「子どもの基礎学力」（55.8%）、「主体的に学ぶ力」（47.3%）、「子どもの健康や体力」（44.7%）が上位3位となっており、“学力”とともに“自発性”と“健康”があがっています。

また、子どもたちに望む姿（P10）でも、「思いやりややさしさを持った子ども」（73.6%）、「ルールやマナーを守る子ども」（41.8%）に続いて「健康で活発な子ども」（35.2%）となっており、子どもの健康については関心度も高く、要望も高くなっています。

「思いやり、やさしさ」に関しては、現状で三田市の子どもたちに身につけている能力・態度（P12）でも、今後の重要度でも、『⑦道徳心（思いやりの心や善悪の判断など）』が、『⑨いじめ・暴力行為を許さない心』について高い割合となっています。このことから、三田市の子どもたちに思いやりの心が身につけていると同時に、今後も思いやりの心を持ち続けることが望まれています。

市民調査での小・中学校に対しての要望（P14）では、「子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること」（45.3%）、「子どもに対する愛情を持って接すること」（42.7%）、「教育に対する責任感を持って接すること」（33.8%）が上位3位となっています。また、中学生・高校生を持つ人では「子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が高く、子どもの進路への関わりが望まれています。

いじめや不登校などの問題の防止（P16）では、市民調査では「保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること」（76.1%）、「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること」（64.3%）、「学校や家庭において情報モラル教育の充実を図ること」（38.1%）があげられており、家庭と学校が連携していくことが大切であると考えられます。

就学前教育について（P15）は、市民調査では「あいさつやルールなどの規範意識を育成すること」（74.7%）、「基本的な生活習慣を形成すること」（67.4%）が上位2位となっており、初めての集団生活を送るために必要な態度や、今後の人生の基礎となる基本的な生活習慣等の育成への要望が高くなっています。

特別支援教育の充実のために必要な取り組み（P17）については、市民調査では「子どもの個性や特性に応じた相談体制の充実」（64.0%）のほか、「障害に対する理解を深めるための学習の充実」（48.5%）、「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保」（47.9%）といった理解や共生に関する事項が求められており、インクルーシブ教育の理念に基づき、障害のある子どもとない子どもが、共に学べるよう支援していくことが求められています。

2 学びの環境づくり・学校づくりについて

学校・家庭・地域が相互の連携・協力で大切なこと（P18、P32）について、市民調査、教職員調査ともに「それぞれの情報を共有すること」（市民 77.5%、教職員 79.7%）、「学校・家庭・地域をつなぐ人がいること」（市民 42.7%、教職員 48.8%）、「それぞれの役割分担を明らかにすること」（市民 34.3%、教職員 50.8%）が上位3位となっており、情報共有と学校・家庭・地域をつなぐコーディネーター的な役割を担う人材の育成、役割の明確化が求められています。

小学校・中学校の再編を進める上での必要な配慮（P19、P33）については、市民調査、教職員調査ともに「通学の安全・通学手段の確保」（市民 57.8%、教職員 43.9%）、「余裕をもって子どもに教育指導ができる職員配置」（市民 55.6%、教職員 78.2%）が上位にあがっており、子どもの安全確保、並びに児童・生徒数にあわせた適切な教員配置が学校再編を進めていく上で特に配慮していく必要があると考えられます。

教員の業務の中で多忙な業務（P26）として『①保育・授業の準備』（30.8%）、『②学習評価や成績処理、保育の評価・記録』（31.1%）があげられており、教員の余裕を確保するための業務改善が必要となっています。

加えて、教職員調査では、三田市の教育の取組で現在できていないもの（P28）として『⑩職員が子ども一人一人に向き合うための環境整備（勤務時間の適正化等）』が17.1%を占めています。さらに、充実する必要がある取り組み（P29）としても、『⑩職員が子ども一人一人に向き合うための環境整備（勤務時間の適正化等）』が65.3%と高いことから、勤務時間の適正化が求められていることが伺えます。

新型コロナウイルス感染症による教育についての不安について（P20、P34）は、市民調査、教職員調査ともに「学習保障に関すること」（市民 53.9%、教職員 42.2%）、「対面によるコミュニケーション不足に関すること」（市民 35.1%、教職員 38.9%）が上位となっており、緊急事態宣言に伴う休校による学習の遅れ、教職員と生徒・児童とのコミュニケーション不足が懸念されています。

3 まち（地域）全体での子どもの学びと成長の支援について

市民調査では、地域行事への参加（P21）については、「よく参加している」と「時々参加している」をあわせた“参加している”が52.8%、「あまり参加していない」と「全く参加していない」をあわせた“参加していない”が46.6%と、参加している人と、参加していない人の割合が拮抗しています。

一方、小学5年生・中学2年生調査（P41）では、地域行事に参加したい人が70.3%を占めており、子どもたちは大人よりも地域行事への参加意欲が高くなっています。

また、市民調査で、地域で子どもたちの教育に関わってくれる人（P22）が、“多いと思う”人が68.6%と多数を占めており、地域ぐるみでの教育力は高いと考えられます。

しかし、子どもたちを取り巻く環境の変化（P11）では、「減ってきた」ものとして、『(ウ) 地域で活動している人とふれあう機会』（41.7%）、『(エ) 子どもと高齢者がふれあう機会』（40.5%）が多数となっており、地域での教育力を維持していくことが難しい現状も伺えます。

市民で子育てで大切にしていること（P23）については、「子どもとコミュニケーションをたくさんとること」（66.8%）、「子どもの興味関心を広げること」（47.7%）、「子どもの自立性を大切にする」（38.1%）となっています。

4 子どもたちの思いについて（小学5年生・中学2年生調査）

自分の長所があると思う子ども（P38）は、全体で68.2%となっています。しかし、中学生で“当てはまらない”（長所がない）と感じる子どもが増加しており、成長につれ自己肯定感が低くなっている現状も伺えます。

信頼できる友だちの有無（P39）については、“当てはまる”（信頼できる友だちがいる）が94.1%、家族とよく話すか（P40）については、“当てはまる”（家族とよく話す）が93.4%と、ともに大半を占めています。

子どもたちが魅力を感じる学校（P42）については、「わかりやすい授業や楽しい授業を受けることができる学校」（48.6%）、「友だちや仲間と何でもわかりあえる関係がくれる学校」（37.6%）、「いじめや差別のない学校」（36.6%）となっています。

VIII 自由意見まとめ

1 市民アンケート調査 321件(260人)

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 社会的自立に向けた教育について	3件
(2) 幼児教育について	4件
(3) 学力について	15件
(4) 体験・交流・心の育成について	8件
(5) 不登校やいじめについて	15件
(6) 体力や健康づくりについて	4件
(7) 支援が必要な子ども・家庭について	12件
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	36件
① 教職員への感謝	(6)
② 教職員の資質向上について	(15)
③ 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	(11)
④ その他	(4)
(2) 学校再編について	56件
(賛成意見 25件)	
① 藍・長坂の再編について	(1)
② 機会・経験・教育格差について	(4)
③ 校区再編について	(1)
④ 財政面について	(1)
⑤ 早急に進めるべき	(2)
⑥ 通学の配慮について	(3)
⑦ 人間関係について	(7)
⑧ 部活動について	(3)
⑨ その他	(3)
(反対意見 16件)	
① 計画見直しについて	(3)
② 少人数教育について	(3)
③ 人口増の政策が優先、地域が廃れることについて	(3)
④ 通学の負担について	(3)
⑤ 幼稚園について	(1)
⑥ その他	(3)
小中一貫校について	(3)
学校選択制について	(3)

その他	(12)
(3) 通学、安全、安心なまちについて	8件
(4) 学校施設等について	8件
3. 子どもの教育（学校教育）について	
(1) ICT、オンライン教育について	17件
(2) 少人数学級について	5件
(3) 部活動について	4件
(4) 学校教育について	22件
4. PTAについて	
(1) 負担軽減、簡素化、効率化について	9件
(2) 廃止すべき	3件
5. 学校・家庭・地域の連携について	
学校・家庭・地域の連携について	3件
6. モラルについて	
モラルについて	3件
7. 感染症対策等について	
感染症対策等について	2件
8. 文化活動や地域行事などについて	
文化活動や地域行事などについて	13件
9. その他の教育施設等について	
(1) 公園設備について	3件
(2) 公共施設の無償化について	1件
(3) 児童クラブについて	7件
(4) 就学前施設について	4件
(5) 放課後等の居場所、学習の場について	3件
10. その他	
(1) 学校施設の有効活用について	2件
(2) 学校選択制について	1件
(3) 高校について	4件
(4) 医療費等の無償化について	11件
(5) その他	35件

2 教職員アンケート調査 241件（203人）

1. 子どもの学び、育ちについて	
(1) 学力について	3件
(2) 不登校やいじめについて	1件
(3) 支援が必要な子ども・家庭について	2件
2. 教職員、教育環境等について	
(1) 教職員について	111件
① 教職員の資質向上について	(8)
② 勤務時間の適正化、多忙解消、増員などについて	(99)
③ その他	(4)
(2) 学校再編について	28件
① 賛成意見	(17)
② 反対意見	(5)
③ 小中一貫教育について	(2)
④ その他	(4)
(3) 通学、安全、安心なまちについて	3件
(4) 学校施設等について	26件
3. 子どもの教育について	
(1) ICT、オンライン教育について	34件
(2) 少人数学級について	6件
(3) その他	9件
4. PTAについて	
PTAについて	1件
5. 学校・家庭・地域の連携について	
学校・家庭・地域の連携について	5件
6. モラルについて	
モラルについて	1件
7. 感染症対策について	
感染症対策について	4件
8. 文化活動や行事などについて	
文化活動や行事などについて	2件
9. その他	
その他	5件

IX 参考資料

1 市民アンケート調査票

三田市の教育に関する市民アンケート調査のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し、ご協力をいただきありがとうございます。
 さて、三田市では、これまでの学校・家庭・地域における教育の取組の成果と課題を検証するとともに、今後の取り組みべき方向性を定めるため、「第3期三田市教育振興基本計画(計画期間：令和4年度～令和8年度の5年間)」の策定を予定しています。
 そのために、広く市民の皆様の声を聞き、今後の教育のあり方を考える参考とさせていただきます。市民アンケート調査を実施することといたしました。
 アンケートの結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用させていただきますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
 なお、回答いただいた内容はすべて統計学的に処理しますので、個人的なご意見などが外部にもれることは一切ありません。

令和2年10月 三田市教育委員会

【対象】三田市にお住まいの18歳以下のお子さんのいる世帯から無作為に選んだ2,000人

【記入にあたってのお願い】

この調査は、郵送による回答とインターネットでの回答のどちらかをお選びいただけます。

- ①回答は、できるかぎり宛名のお子さんの保護者をお願いしますが、回答が困難な場合は、ご家族の方と一緒にお住いの方等にもご協力いただきますようお願いいたします。
- ②質問ごとに、あてはまる番号を○で囲んでください。
- ③「その他」にあてはまる場合は、() 内になるべく具体的に記入ください。

《郵送の場合》

- ①回答は、えんぴつ、ボールペンなどではっきりと記入ください。
- ②**令和2年10月23日(金)**までに、同封の返信用封筒にて返送してください。(切手は不要です。) お名前、住所を記入いただく必要はありません。

《インターネットの場合》

- ①パソコンやスマートフォンから、下記URL(または二次元コード)にアクセス後、IDとパスワードでログインし、項目ごとに回答してください。
- 回答の入力は、**令和2年10月23日(金)24時**までにお願います。
- ②IDとパスワードは無作為に付与しており、回答された方が特定されることはありません。

【URL】………

調査票ID:
 パスワード:
 (すべて半角英数字です。)

【お問い合わせ】三田市教育委員会 学校教育部 教育総務課 TEL:079-559-5131
 FAX:079-563-1343

アンケートに回答いただいているあなた自身のことについておたずねします。

問1 あなたの年齢は何歳ですか。(令和2年10月1日現在)(1つに○)

- 1. 30歳未満 2. 30歳代 3. 40歳代
- 4. 50歳代 5. 60歳以上

問2 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。

宛名のお子さんからみられた関係でお答えください。(1つに○)

- 1. 父親 2. 母親 3. 祖父
- 4. 祖母 5. その他()

問3 お住まいの小学校区はどちらですか。(1つに○)

- 1. 三田小学校 2. 三輪小学校 3. 志手原小学校 4. 藍小学校
- 5. 本庄小学校 6. 広野小学校 7. 小野小学校 8. 高平小学校
- 9. 母子小学校 10. 武庫小学校 11. 松が丘小学校 12. すずかけ台小学校
- 13. 狭間小学校 14. 富士小学校 15. あかしあ台小学校 16. 弥生小学校
- 17. つつじが丘小学校 18. けやき台小学校 19. 学園小学校 20. ゆりのき台小学校

※小学校区が不明な場合は、市HP(https://www.city.sanda.lg.jp/kyouiku_soumu/tsuugakukukiki.html)をご覧ください。

問4 あなたは、三田市に住んで何年になりますか。(令和2年10月1日現在)(1つに○)

- 1. 1年未満 2. 1年以上～5年未満 3. 5年以上～10年未満
- 4. 10年以上～20年未満 5. 20年以上

問5 宛名のお子さんは次のどちらに該当しますか。(1つに○)

- 1. 就学前の子ども 2. 小学生の子ども 3. 中学生の子ども
- 4. 高校生の子ども 5. その他()

問6 宛名のお子さん以外に兄弟姉妹はいらっしゃいますか。

いる場合は次のどちらに該当しますか。(該当するものに○)

- 1. 就学前の子ども 2. 小学生の子ども 3. 中学生の子ども
- 4. 高校生の子ども 5. その他() 6. いない

子どもの教育や学習に関する取組についておたずねします。

問7 子どもの教育について、関心のあることは何ですか。
(主なものを3つまで○)

1. 子どもの基礎学力
2. 主体的に学ぶ力
3. 子どもの健康や体力
4. 子どもの基本的な生活習慣
5. 子どもの道徳心や規範意識
6. 子どものいじめや問題行動
7. 学校の施設・設備
8. 教職員の指導力や専門性
9. 家庭でのしつけ・教育
10. 家庭でのコミュニケーション
11. 地域での子育て・教育
12. 学校・家庭・地域の連携
13. その他()

※学校：このアンケートで、学校とは、就学前教育・保育施設(幼稚園、保育所、認定こども園、小規模保育施設など)、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校を指します。

問8 あなたは、子どもたちに、どのような子どもになってほしいと思いますか。
(主なものを3つまで○)

1. ルールやマナーを守る子ども
2. 健康で活発な子ども
3. 自分の意見をはっきりと言える子ども
4. 創造性が豊かな子ども
5. 思いやりややさしさを持った子ども
6. 努力できる子ども
7. 責任感を持った子ども
8. 主体的に学ぼうとする子ども
9. 向上心やチャレンジ精神のある子ども
10. 夢を持っている子ども
11. リーダーシップのある子ども
12. ふるさとを愛する子ども
13. その他()

問9 子どもたちを取り巻く環境は、この数年、どのように変化してきましたか。
(○は(ア)～(キ)ごとに1つ)

	増えてきた	変わらない	減ってきた
(ア) 学校以外の子ども同士との交流の時間	3	2	1
(イ) 家庭などで子どもたちと関わり合いを持つ時間	3	2	1
(ウ) 地域で活動している人とふれあう機会	3	2	1
(エ) 子どもと高齢者がふれあう機会	3	2	1
(オ) 外国の人や異文化とふれあう機会	3	2	1
(カ) インターネットなど多様な情報にふれる機会	3	2	1
(キ) 家庭における経済格差	3	2	1

問10 教育を通じて、子どもたちには「現在」①～⑯の能力や態度が身についていると思いますか。また、「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。

項目	【現在の状況】 身につけている			【今後の重要度】		
	5	4	3	5	4	3
① 自ら学び、考え、主体的に行動する力	5	4	3	5	4	3
② 表現力やコミュニケーション力	5	4	3	5	4	3
③ 教科の基礎的な学力	5	4	3	5	4	3
④ ICTを活用しようとする姿勢や能力	5	4	3	5	4	3
⑤ 英語に興味を持ち学ぼうとする姿勢	5	4	3	5	4	3
⑥ 読書習慣	5	4	3	5	4	3
⑦ 道徳心 (思いやりや心の善悪の判断など)	5	4	3	5	4	3
⑧ 社会生活に必要な常識やマナー	5	4	3	5	4	3
⑨ いじめ・暴力行為を許さない心	5	4	3	5	4	3
⑩ 生き方や道徳について考える力	5	4	3	5	4	3
⑪ 偏見や差別をなくそうとする姿勢	5	4	3	5	4	3
⑫ 多様な人々がお互いに認め合い、共に生きる姿勢	5	4	3	5	4	3
⑬ “ふるさと三田”を誇りに思う心、愛する心	5	4	3	5	4	3
⑭ 地域の人や行事に積極的に関わろうとする姿勢	5	4	3	5	4	3
⑮ 体力を向上させ、健康的に生きようとする姿勢	5	4	3	5	4	3
⑯ 緊急事態において、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる力	5	4	3	5	4	3

問 11 あなたは、学校に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

1. 教育に対する責任感を持って接すること
2. 子どもの個性に応じたきめ細やかな対応をすること
3. 生活習慣や社会規範の手法となり、指導すること
4. 子どもに対する愛情を持って接すること
5. 子どもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること
6. 子どもや保護者の相談に対して、しっかりと話を聞いて的確に助言してくれること
7. 担当教科に関して専門的な知識を持っていること
8. どの子どもに対しても公平に接すること
9. 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持っていること
10. 体育などの基礎的な体力づくりを推進すること
11. その他()

問 12 あなたは、就学前教育に対してどのようなことを望みますか。(主なもの3つまで○)

1. 基本的な生活習慣を形成すること
2. あいさつやルールなどの規範意識を育成すること
3. 自然とふれあう体験をすること
4. 世代間交流など、いろいろな人とふれあう体験をすること
5. 預かり保育などの子育て支援に取り組むこと
6. 幼稚園や保育所等と小学校と連携すること
7. 保護者の教育力の向上に向けた支援
8. 保護者同士が子育てについて情報交換しあえるネットワークづくり
9. その他()

問 13 あなたは、いじめや問題行動などを防止するためにどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. 保護者が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること
 2. 教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握し指導すること
 3. 地域全体で子どもたちを見守るなど、地域の教育力を高めること
 4. 学校や家庭において情報モラル教育[※]の充実を図ること
 5. 学校において人権教育や道徳教育の充実を図ること
 6. 専門の相談員(スクールカウンセラー[※])に、いつでも悩みを相談できること
 7. 市や教育委員会がいじめ防止の啓発活動などに積極的に取り組むこと
 8. 学校と警察や子ども家庭センター(児童相談所)などの関係機関との連携を強化すること
 9. その他()
- ※情報モラル教育:よりよいコミュニケーションや人間関係づくりに向けて、インターネットやスマートフォンなど情報手段を上手にかしこく使っていくための判断力や心構えを身に付けさせる教育。
- ※スクールカウンセラー:心の悩みなどに対して、小・中・高等学校に配置し、児童生徒や保護者、教職員へのカウンセリングを行う専門家。

問 14 あなたは、特別支援教育[※]の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育の場と機会の確保
 2. 乳幼児期からの相談支援体制の整備
 3. 子どもの個性や特性に応じた相談体制の充実
 4. 教職員の専門性の向上
 5. 学校環境のユニバーサルデザイン[※]化
 6. 障害に対する理解を深めるための学習の充実
 7. その他()
- ※特別支援教育:障害のある子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。
- ※ユニバーサルデザイン:年齢や障害の有無にかかわらず、できるだけ多くの人が利用することができるようなデザイン。

問 15 学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深め、子育てしていくことが求められますが、その上で、大切なことは何だと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. それぞれの役割分担を明らかにすること
 2. それぞれの情報を共有すること
 3. 定期的に話し合う場を設けること
 4. 学校・家庭・地域をつなぐ人がいること
 5. コミュニティ・スクール[※]を推進すること
 6. 地域の人が子どもたちの学習支援や子どもたちの交流を行うこと
 7. PTA活動を活性化すること
 8. 地域でのイベント等を学校や関係機関等と協力で行うこと
 9. その他()
- ※コミュニティ・スクール:学校と地域住民などが協働しながら学校の運営に取り組む仕組み。

問 16 三田市では各学校の児童生徒数の減少による小規模化が課題となっており、子どもたちの教育環境を保障するため、今後、三田市立小中学校の再編を進めていく上で、市はどのような取組に配慮していくことが望ましいと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. 学習指導の充実
 2. 子どもたちの部活動や体験学習などの課外活動の充実
 3. 教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応
 4. 通学の安全・通学手段の確保
 5. 学校と地域とが協働して学校運営を行う仕組みづくり
 6. 余裕をもって子どもにも教育指導ができる職員配置
 7. 小中一貫教育[※]を推進すること
 8. 幼稚園など就学前教育との連携
 9. バリアフリーなど学校施設の充実
 10. 特色ある教育の推進
 11. その他()
- ※小中一貫教育:小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、系統的な教育を目指す教育。

2 教職員アンケート調査票

三田市の教育に関する教職員アンケート調査のお願い

教職員の皆様には、日頃から三田市の児童・生徒・園児の教育にご尽力いただきありがとうございます。

この度、教育委員会では、「第3期三田市教育振興基本計画(計画期間:令和4年度～令和8年度の5年間)」の決定にあたり、教育に関する意見等をお聴かせいただきたく、教職員を対象にアンケート調査を実施することといたしました。

アンケート結果は、今後の教育施策のための基礎資料として活用しますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、回答いただきました内容はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることや、アンケート集計の他に使用することは一切ありません。

令和2年10月 三田市教育委員会

なお、調査票は、封筒に入れて、各学校園でとりまどめの上、教育総務課まで提出いただきますようお願いいたします。

.....

【お問合せ】三田市教育委員会 学校教育部 教育総務課

TEL:079-559-5131 FAX:079-563-1343

あなた自身のことについておたずねします。

問1 あなたの勤務先はどちらですか。(1つに○)
※特別支援学校については、小学部は「2」、中学部・高等部は「3」に○を記載してください。

- 1. 幼稚園
- 2. 小学校
- 3. 中学校

問2 あなたの職種を教えてください。(1つに○)

- 1. 管理職
- 2. 管理職以外

問3 あなたの経験年数を教えてください。(1つに○)

- 1. 5年未満
- 2. 5～9年
- 3. 10～19年
- 4. 20～29年
- 5. 30年以上

問4 あなたが勤務している学校園はどの地域ですか。(1つに○)
※特別支援学校については「7 富士中学校区」に○を記載してください。

- 1. 長坂中学校区
- 2. 上野台中学校区
- 3. 狹間中学校区
- 4. 八景中学校区
- 5. けやき台中学校区
- 6. 藍中学校区
- 7. 富士中学校区
- 8. ゆりのき台中学校区

職員の勤務時間適正化に向けた状況についておたずねします。

問5 あなたはご自身の職務について、「現在の状況」として、「現在の状況」として、どの業務が多忙ですか。また、「今後の重要度」について、あなたの考えに最も近いものを、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。「該当なし」の場合は「0」に○をつけてください。

項目	【現在の状況】 多忙である ← 多忙でない →					該当なし	【今後の重要度】 重要 ← 重要でない →					該当なし
	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1	
①保育・授業の準備	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
②学習評価や成績処理、 保育の評価・記録	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
③学校園行事の準備・運営	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
④進路指導	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑤支援が必要な園児・児童 生徒・家庭への対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑥給食時の対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑦調査・統計等への回答等	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑧児童・生徒の休み時間における対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑨園内・校内清掃 (環境整備)	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑩部活動	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑪通園・登下校に関する対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑫放課後から夜間などにおける見回り児童生徒が 補導された時の対応	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑬学校園徴収金の徴収・ 管理	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑭地域ボランティアとの 連絡調整	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

問8 三田市では各学校の児童生徒数の減少による小規模化が課題となっており、子どもの教育環境を保障するため、今後、三田市立小中学校の再編を進めていく上で、市はどのような取組に配慮していくことが望ましいと思いますか。(主なもの3つまで○)

1. 学習指導の充実
2. 子どもたちの部活動や体験学習などの課外活動の充実
3. 教育環境の変化により配慮が必要となる児童生徒への対応
4. 通学の安全・通学手段の確保
5. 学校と地域とが協働して学校運営を行う仕組みづくり
6. 余裕をもって子どもにも教育指導ができる職員配置
7. 小中一貫教育※を推進すること
8. 幼稚園など就学前教育との連携
9. バリアフリーなど学校施設の充実
10. 特色ある教育の推進
11. その他()

※小中一貫教育:小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、系統的な教育を目指す教育。

問9 新型コロナウイルス感染症の流行に際し、三田市の子どものための教育について不安に感じていることは何ですか。(主なもの3つまで○)

1. 学習保障に関すること
2. 心のケアに関すること
3. 対面によるコミュニケーション不足に関すること
4. 運動不足・体力の低下など健康保持に関すること
5. 生活習慣のみだれに関すること
6. 学校行事に関すること
7. 部活動に関すること
8. ICT 環境整備・オンライン指導に関すること
9. 学校園での感染症対策に関すること
10. その他()

三田市の教育に関して、望むことや具体的な提案、感想がありましたら、ご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

3 小学5年生・中学2年生調査票

アンケートのお願い

三田市の小学校に通う小学5年生の皆さんへ

このアンケートは、これからの三田の教育、皆さんの通う学校をより良くするための新しい計画づくりにいかしていきます。ご協力をよろしくお願ひします。

問1～4について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

質問	当てはまる	どちらか といえは、 当てはま らない	当てはま らない	わからぬ	
問1 「あなたは自分に良いところがあると思いま すか」	5	4	3	2	1
問2 「あなたには信頼できる友だちがいますか」	5	4	3	2	1
問3 「あなたは家族とよく話をしますか（親せき の人でもいいです）」	5	4	3	2	1
問4 「あなたは地いきの行事やイベントに参加し たいと思えますか」	5	4	3	2	1

問5 あなたは、どのような学校にみりよく（いい）、すてきだと感じる（こと）を感じますか。
おもなもの3つまで○をつけてください。

- 1 わかりやすい授業や楽しい授業を受けられる学校
- 2 英語やプログラミングなどこれから重要となる教育が行われる学校
- 3 友だちや仲間と何でもわかりあえる関係がつくれる学校
- 4 いろいろな先生に、相談することができ学校
- 5 運動会や音楽会などの学校行事が活発な学校
- 6 一人一人が活やくできる場が多くある学校
- 7 クラブ活動の種類が多く、やってみたくら活動ができる学校
- 8 いじめや差別のない学校
- 9 学校の校舎や教室、学習で使う道具が整っている学校
- 10 通学時間が短い学校
- 11 給食がおいしい学校
- 12 保護者やまわりの大人が自分を見守ってくれている学校
- 13 その他（ ）

ご協力ありがとうございます。アンケートは、担任の先生に確認してください。
三田市教育委員会（教育総務課）

アンケートのお願い

三田市の中学校に通う中学2年生の皆さんへ

このアンケートは、これからの三田の教育、皆さんの通う学校をより良くするための新しい計画づくりにいかしていきます。ご協力をよろしくお願ひします。

問1～4について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

質問	当てはまる	どちらか といえは、 当てはま らない	どちらか といえは、 当てはま らない	当てはま らない	わからぬ
問1 「あなたは自分に良いところがあると思いま すか」	5	4	3	2	1
問2 「あなたには信頼できる友だちがいますか」	5	4	3	2	1
問3 「あなたは家族とよく話をしますか（親せき の人でもいいです）」	5	4	3	2	1
問4 「あなたは地域の行事やイベントに参加した いと思えますか」	5	4	3	2	1

問5 あなたは、どのような学校に魅力（いい）、素敵だと感じる（こと）を感じますか。
主なもの3つまで○をつけてください。

- 1 わかりやすい授業や楽しい授業を受けられる学校
- 2 英語やプログラミングなどこれから重要となる教育が行われる学校
- 3 友だちや仲間と何でもわかりあえる関係がつくれる学校
- 4 いろいろな先生に、相談することができ学校
- 5 体育祭や文化祭などの学校行事が活発な学校
- 6 一人一人が活躍できる場が多くある学校
- 7 部活動の種類が多く、やってみたくら活動ができる学校
- 8 いじめや差別のない学校
- 9 学校の校舎や教室、学習で使う道具が整っている学校
- 10 通学時間が短い学校
- 11 給食がおいしい学校
- 12 保護者やまわりの大人が自分を見守ってくれている学校
- 13 その他（ ）

ご協力ありがとうございます。アンケートは、担任の先生に確認してください。
三田市教育委員会（教育総務課）